

すげ の さわ さくだて Ⅰ
菅ノ沢遺跡・柵館Ⅰ遺跡

— 市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書 —

2015.3

岩手県宮古市教育委員会

すげ の さわ さくだて 1
菅ノ沢遺跡・柵館Ⅰ遺跡

— 市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書 —

2015.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

本州最東端に位置する岩手県宮古市には、650箇所の遺跡が分布し、縄文時代から現代まで連綿と続く先人たちの営みが数多く残されています。市教育委員会ではこれらの遺跡を後世に伝え残していくために周知と保護・保存を行っております。なかでも開発工事等により発掘調査された遺跡については記録として保存し、さらに出土した土器や石器などは体験学習や展示に活用しております。

本発掘調査報告書は、市道長根岩船線道路改良事業に伴い実施された菅ノ沢遺跡・柵館Ⅰ遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。菅ノ沢遺跡Fトレンチ～Mトレンチの盛土層からは大量の鉄滓が出土しており、調査地点周辺における鉄生産関連遺構の存在が示唆されます。

最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚く御礼申し上げます。


平成27年3月

宮古市教育委員会

教育長 伊藤 晃 二

例 言

1. 本書は市道長根岩船線道路改良工事に伴う菅ノ沢遺跡・柵館 I 遺跡及び遺跡隣接地の発掘調査報告書である。
2. 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 中屋定基（～平成 22 年度）、佐々木敏夫（平成 22 年度～ 25 年度）、伊藤晃二（平成 25 年度～））である。発掘調査及び本書の執筆・編集は文化課の長谷川が担当し、その他文化課担当職員がこれを補佐した。
3. 断面図における水準標高は海拔標高を示す。土色及び土質の観察は『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著 2001 年度版）を基準とし、図版中において土層観察表で表示した。遺物の観察は全て肉眼観察により行い、遺物観察表としてまとめている。
4. 図版中のスクリーントーン表示は図版中で定めない限り以下の通りである。

遺構図版 :  石

遺物図版 :  繊維が混入された土器

5. 試掘トレンチ図版の縮尺率は 1/50 で、各図版のスケール上に縮尺率を明示した。遺物図版の縮尺率は、土器類は 1/3、剥片石器は 2/3 とした。
6. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 表目次

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 立地と環境	3
第1節 宮古市の位置と遺跡の環境	
第2節 周辺の遺跡	
第3章 菅ノ沢遺跡	7
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 試掘調査概要	
第4章 柵館I遺跡	22
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 試掘調査概要	
第5章 遺跡隣接地の試掘調査	33
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 試掘調査概要	
第6章 まとめ	40
報告書抄録	41

図版目次

第1章 調査に至る経緯

第1図 遺跡位置図・・・・・・・・・2

第2章 立地と環境

第2図 地形分類図・・・・・・・・・4

第3図 地質図・・・・・・・・・5

第4図 周辺の遺跡分布図・・・・・・・・・6

第3章 菅ノ沢遺跡

第5図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ位置図・・・8

第6図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(1)・・・9

第7図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(2)・・・11

第8図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(3)・・・12

第9図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(4)・・・14

第10図 盛土・水成堆積層 出土遺物・・・16

第4章 柵館Ⅰ遺跡

第11図 柵館Ⅰ遺跡 試掘トレンチ位置図・・・23

第12図 柵館Ⅰ遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(1)・・・25

第13図 柵館Ⅰ遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(2)・・・26

第14図 柵館Ⅰ遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(3)・・・27

第15図 盛土・水成堆積層 出土遺物・・・28

第5章 遺跡隣接地の試掘調査

第16図 遺跡隣接地 試掘トレンチ位置図・・・34

第17図 遺跡隣接地 試掘トレンチ平面図・断面図(1)・・・35

第18図 遺跡隣接地 試掘トレンチ平面図・断面図(2)・・・37

21 Hトレンチ 堆積状況(東→)・・・19

22 Iトレンチ 完掘状況(東→)・・・20

23 Iトレンチ 堆積状況(東→)・・・20

24 Jトレンチ 完掘状況(東→)・・・20

25 Jトレンチ 堆積状況(東→)・・・20

26 Kトレンチ 完掘状況(南→)・・・20

27 Lトレンチ 完掘状況(東→)・・・20

28 Mトレンチ 完掘状況(東→)・・・20

29 Mトレンチ 堆積状況(東→)・・・20

30 盛土・水成堆積層 出土遺物(1)・・・21

31 盛土・水成堆積層 出土遺物(2)・・・21

柵館Ⅰ遺跡

32 平成18年度 調査前現況(西→)・・・30

33 平成18年度 調査前現況(西→)・・・30

34 Aトレンチ 完掘・堆積状況(東→)・・・30

35 Bトレンチ 完掘・堆積状況(東→)・・・30

36 Cトレンチ 完掘・堆積状況(西→)・・・30

37 Dトレンチ 完掘・堆積状況(東→)・・・30

38 Eトレンチ 完掘・堆積状況(南西→)・・・30

39 Fトレンチ 完掘・堆積状況(西→)・・・30

40 Gトレンチ 完掘・堆積状況(北東→)・・・31

41 Hトレンチ 完掘・堆積状況(南→)・・・31

42 Iトレンチ 完掘・堆積状況(北→)・・・31

43 Jトレンチ 完掘・堆積状況(南西→)・・・31

44 平成19年度 調査前現況(東→)・・・31

45 Kトレンチ 完掘・堆積状況(東→)・・・31

46 Lトレンチ 完掘・堆積状況(東→)・・・31

47 Mトレンチ 完掘・堆積状況(東→)・・・31

48 盛土・水成堆積層 出土遺物・・・32

写真図版目次

菅ノ沢遺跡

1 菅ノ沢遺跡 航空写真(西→)・・・17

2 調査前現況(A～Dトレンチ)(南東→)・・・17

3 調査前現況(Eトレンチ)(東→)・・・17

4 Aトレンチ 完掘状況(南→)・・・17

5 Aトレンチ 堆積状況(南→)・・・17

6 Bトレンチ 完掘状況(南→)・・・18

7 Cトレンチ 完掘状況(南→)・・・18

8 Cトレンチ 堆積状況(東→)・・・18

9 Dトレンチ 完掘状況(南→)・・・18

10 Dトレンチ 堆積状況(南→)・・・18

11 Eトレンチ 完掘状況(西→)・・・18

12 Eトレンチ 堆積状況(西→)・・・18

13 平成15年度 調査風景(西→)・・・18

14 平成16年度 調査前現況(東→)・・・19

15 平成16年度 調査風景(西→)・・・19

16 Fトレンチ 完掘状況(東→)・・・19

17 Fトレンチ 堆積状況(西→)・・・19

18 Gトレンチ 完掘状況(東→)・・・19

19 Gトレンチ 堆積状況(東→)・・・19

20 Hトレンチ 完掘状況(東→)・・・19

遺跡隣接地の試掘調査

49 平成22年度 調査前現況(西→)・・・38

50 平成22年度 調査前現況(東→)・・・38

51 平成22年度 調査前現況(西→)・・・38

52 A-①トレンチ 完掘・堆積状況(南→)・・・38

53 A-②トレンチ 完掘・堆積状況(西→)・・・38

54 B-①トレンチ 完掘・堆積状況(東→)・・・38

55 B-②トレンチ 完掘・堆積状況(西→)・・・38

56 C-①トレンチ 完掘・堆積状況(東→)・・・38

57 C-②トレンチ 完掘・堆積状況(西→)・・・39

58 Dトレンチ 完掘・堆積状況(南→)・・・39

59 Eトレンチ 完掘・堆積状況(北→)・・・39

60 Eトレンチ 完掘・堆積状況(西→)・・・39

61 平成21年度 調査前現況(西→)・・・39

62 Fトレンチ 完掘状況(西→)・・・39

63 Fトレンチ 堆積状況(南→)・・・39

64 Fトレンチ 堆積状況(東→)・・・39

表目次

第1表 市道長根岩船線道路改良工事に伴う
試掘調査履歴・・・・・・・・・2

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

菅ノ沢遺跡は、岩手県宮古市近内第7地割ほかに所在し、現況は水田及び山林・荒蕪地である。また柵館I遺跡は宮古市近内第8地割ほかに所在し、現況は水田及び荒蕪地である。平成14年に市道長根岩船線の道路改良工事に伴う遺跡の有無についての照会が宮古市建設課からあり、それを受け市教育委員会は分布調査を実施し、周知の遺跡範囲3箇所及び遺跡隣接地3箇所の計6箇所（A～F地点）において試掘調査が必要である旨平成14年11月15日付教社第223号で回答している。それぞれの調査概要については第1表を参照されたい。ここでは発掘届出や経過のみ記述する。

菅ノ沢遺跡A地点については、平成15年11月7日建第361号で調査の依頼があり、平成15年11月7日付けで宮古市建設課より文化財保護法第94条の規定による発掘届出が提出された。それを受け岩手県教育委員会から平成15年11月12日付け教生第21-159号で「埋蔵文化財の発掘について」の通知があった。調査後、終了報告を平成16年3月31日付教生第457号で建設課に提出している。

菅ノ沢遺跡B地点については、平成16年9月30日建第195号で調査の依頼があり、平成16年9月14日付けで宮古市建設課より文化財保護法第94条の規定による発掘届出が提出された。それを受け岩手県教育委員会から平成16年10月5日付け教生第8-144号で「埋蔵文化財の発掘について」の通知があった。調査後、終了報告を平成17年3月31日付教生第541号で建設課に提出している。

柵館I遺跡C地点は当初平成17年度での調査予定であったが、諸事情により平成18・19年度の2箇年での調査となった。平成18年7月7日建第29号で調査の依頼があり、平成17年10月26日付けで宮古市建設課より文化財保護法第94条の規定による発掘届出が提出された。それを受け岩手県教育委員会から平成17年11月4日付け教生第8-189号で「埋蔵文化財の発掘について」の通知があった。調査後、終了報告を平成19年3月28日付教生第350号で建設課に提出している。

柵館I遺跡C地点の平成19年度分は平成19年9月19日建第66号で調査の依頼があり、平成19年10月1日付けで宮古市建設課より文化財保護法第94条の規定による発掘届出が提出された。それを受け岩手県教育委員会から平成19年10月17日付け教生第22-120号で「埋蔵文化財の発掘について」の通知があった。調査後、終了報告を平成20年3月28日付教生第1092号で建設課に提出している。

与茂子I遺跡隣接地D地点は、平成21年9月1日建第45号で調査の依頼があり、調査後、終了報告を平成22年3月29日付教生第574号で建設課に提出している。

与茂子I遺跡隣接地E・F地点は、平成22年4月14日建第8号で調査の依頼があり、調査後、終了報告を平成23年3月31日付教生第623号で建設課に提出している。

報告書作成に向けた整理作業は平成24年度から平成26年度まで実施している。

第2節 調査体制

<平成15・16年度菅ノ沢遺跡、平成18・19年度柵館I遺跡、平成21・22年度遺跡隣接地、平成24～26年度整理作業>

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 中屋定基（～平成22年度）

佐々木敏夫（平成22～25年度）

伊藤晃二（平成 25 年度～）

調査総括 伊藤賢一 宮古市教育委員会生涯学習課長（平成 15 年度）
 佐々木剛 ” 生涯学習課長（平成 16 年度）
 関沢敏 ” 文化課長（平成 17・18 年度）
 元田秀一 ” 文化課長（平成 19・20 年度）
 上屋敷正明 ” 文化課長（平成 21 年度）
 鳥居茂 ” 文化課長（平成 22・23 年度）
 竹下将男 ” 文化課長（平成 23 年度～）

課員（生涯学習課～平成 17 年度、文化課平成 17 年度～）

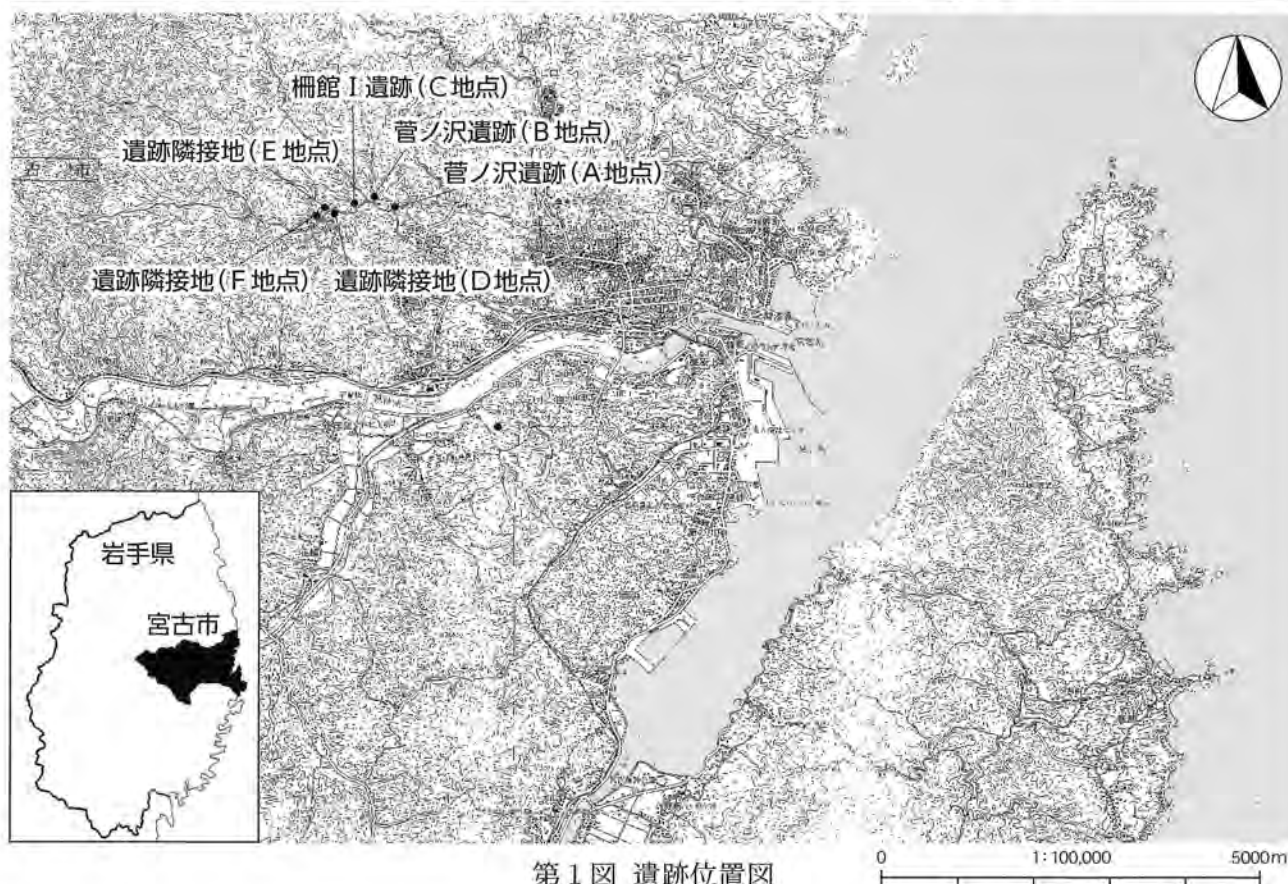
竹下将男 高橋憲太郎 鎌田祐二 布谷義彦 加納由美 安原誠 長谷川真（調査・報告書担当）
 阿部豊 江口邦泰 千葉剛史

<発掘調査作業員・整理作業員>

在原正利 大倉明男 大沢裕明 大下義文 大森修 越田真理子 小林功行 小松義一 坂本晃
 佐々木隆 飛澤信喬 鳥居義文 豊間根茂平 野崎秀人 福士祐二 三浦功 村松光子 山根保行
 山屋秋英 米澤豊

第 1 表 市道長根岩船線道路改良工事に伴う試掘調査履歴

No.	遺跡名	調査年度	調査期間	試掘調査面積 (㎡)	備考
1	菅ノ沢遺跡 (A 地点)	平成 15 年度	平成 15 年 11 月 12 日～12 月 1 日	42	盛土中から鉄滓出土
2	菅ノ沢遺跡 (B 地点)	平成 16 年度	平成 16 年 11 月 12 日～11 月 25 日	54	盛土中から鉄滓・縄文土器出土
3	柵館 I 遺跡 (C 地点)	平成 18 年度	平成 18 年 7 月 20 日～8 月 17 日	25.2	水成堆積層から縄文土器・銭貨出土
4	柵館 I 遺跡 (C 地点)	平成 19 年度	平成 19 年 10 月 15 日～10 月 19 日	6	盛土中から縄文土器出土
5	与茂子 I 遺跡隣接地 (D 地点)	平成 21 年度	平成 21 年 9 月 28 日～10 月 2 日	7.5	遺構・遺物なし
6	与茂子 I 遺跡隣接地 (E・F 地点)	平成 22 年度	平成 22 年 4 月 21 日～5 月 18 日	21	遺構・遺物なし



第2章 立地と環境

第1節 宮古市の位置と遺跡の環境

岩手県宮古市は三陸沿岸のほぼ中央に位置し、西は盛岡市、北は岩泉町、南は花巻市・遠野市・山田町と隣接し、東は太平洋に面している。市域の総面積は約1,260km²、人口約56,000人の漁業と観光の都市である。

市域の西側は標高1,917mの早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なり、一方、東側は太平洋を望み、特に北東方向に突き出す重茂半島の鮎ヶ崎は本州の最東端となっている。宮古市周辺の海岸は平成25年5月に三陸復興国立公園として指定され、国指定名勝「浄土ヶ浜」や国指定天然記念物「崎山の蠟燭岩」「崎山の潮吹き穴」などの岩手県随一の景勝地がみられる。また西側の山間部は早池峰国立公園に指定されており、自然豊かな景観をみることができる。ちなみにこれらは平成25年9月に日本ジオパークに認定された「三陸ジオパーク」内のジオポイントとなっている。

菅ノ沢遺跡は岩手県宮古市近内第7地割地内に所在し、黒森山山地を源流とする近内川によって形成された南向きの緩斜面上に立地している。発掘調査した地点の標高は約27～39mである。

柵館Ⅰ遺跡は岩手県宮古市近内第8地割地内に所在し、菅ノ沢遺跡同様、近内川によって形成された緩斜面上に立地している。発掘調査した地点の標高は約43～45mである。

第2節 周辺の遺跡

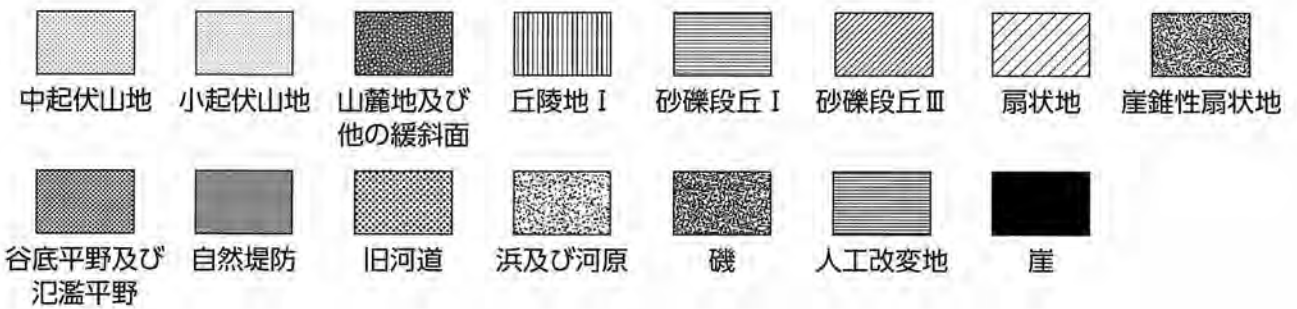
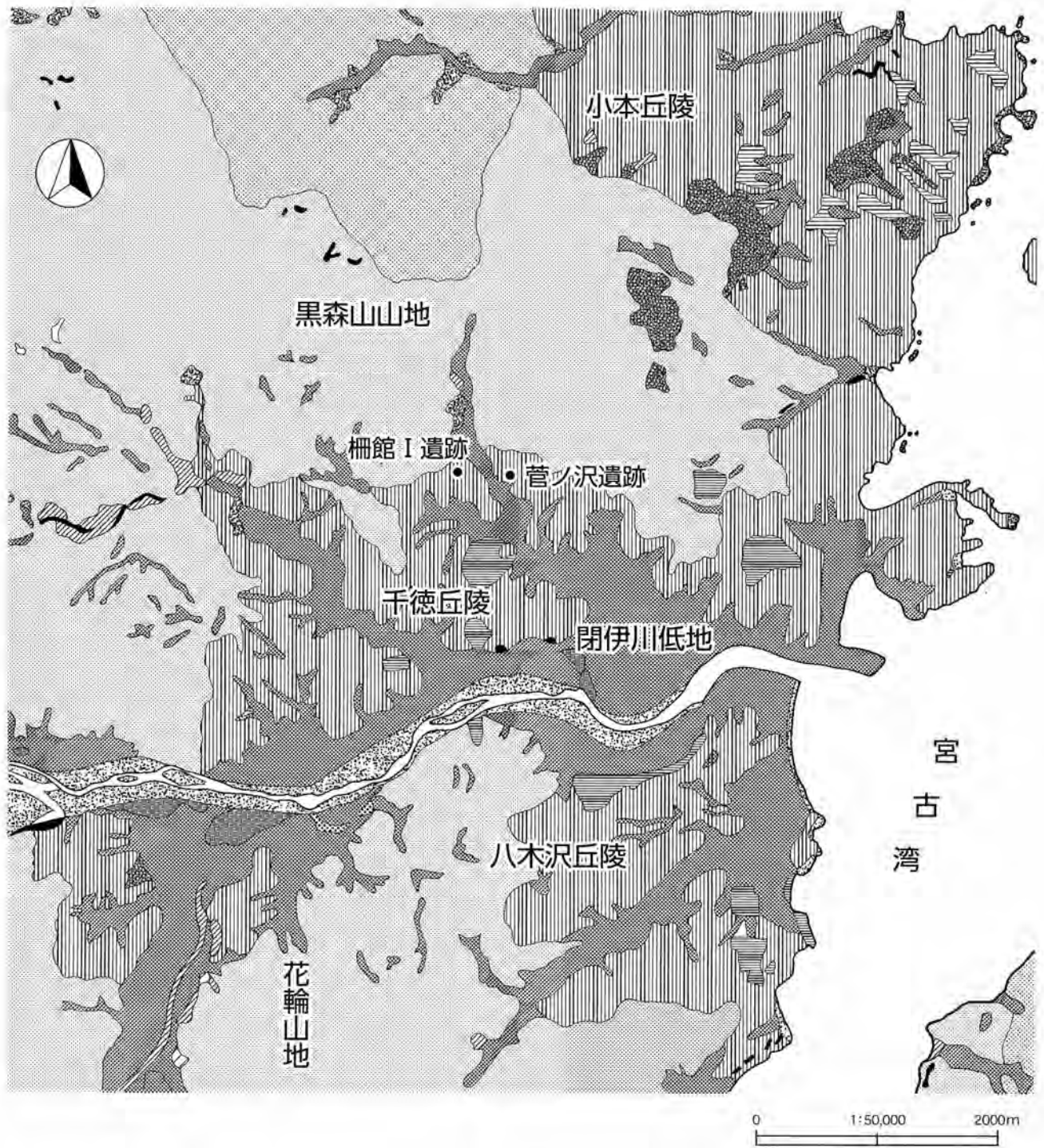
菅ノ沢遺跡・柵館Ⅰ遺跡の周辺には、近内中村遺跡・柵館Ⅱ遺跡・柵館Ⅲ遺跡などが分布し、丘陵緩斜面や尾根上に立地している。発掘調査された遺跡としては近内中村遺跡・大又沢Ⅱ遺跡などが挙げられる。

近内中村遺跡は、平成6年から区画整理事業に伴い大規模に調査され、縄文時代中期から晩期の竪穴住居跡やフラスコ状土坑、墓壙などが多数検出され、さらに古代・中世の竪穴住居跡や炭窯なども確認されている。これまでの調査から縄文時代における近内川流域の拠点的な集落と考えられている。

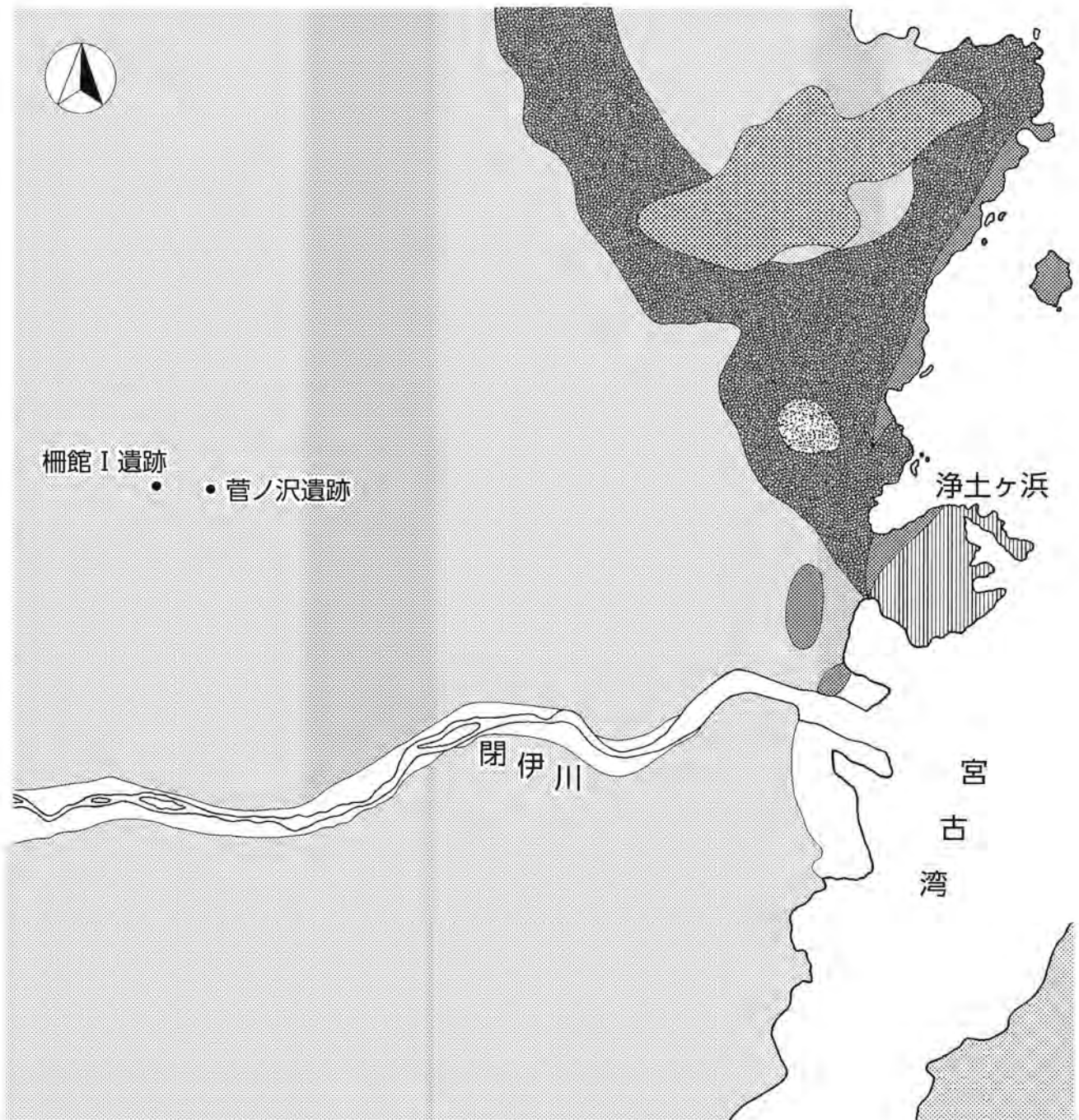
大又沢Ⅱ遺跡は、市道長根岩船線のさらに西側の林道脇に位置し、ヘリポート建設に伴い平成14年に調査された。竪穴状遺構が3基、土坑が35基、遺物包含層が検出され、出土遺物から縄文時代後期前葉のものと考えられる。

ちなみに、今回の調査遺跡でもある菅ノ沢遺跡は、平成16年に個人住宅の建設に伴い本調査が行われている。調査の結果、縄文時代の配石遺構1基、竪穴住居跡2棟、土坑5基、弥生時代の埋設土器1基などが検出されている。中でも配石遺構は市内でも類例のない遺構で、傾斜面を掘り込み平坦面を作りだした後に石を据える構造をもっている。同様の遺構は田野畑村の館石野Ⅰ遺跡で検出されており、列状に配された3本の配石遺構が確認されている。

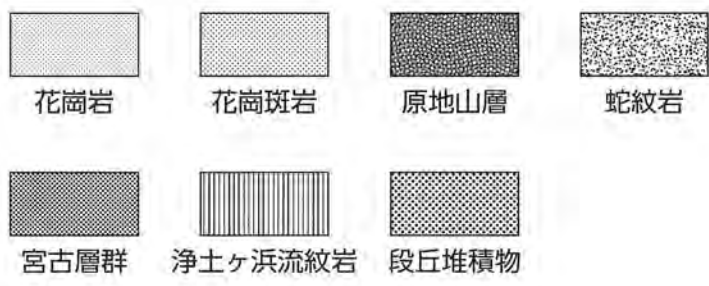
なお、菅ノ沢遺跡からは戦後の開田の際に縄文時代晩期の土偶が発見されている。左脚を欠くほかはほぼ残存しており、中空の内部には3個の鳴子が入っている珍しいものである。振るとカラカラと音がすることから「鳴る土偶」として知られている。



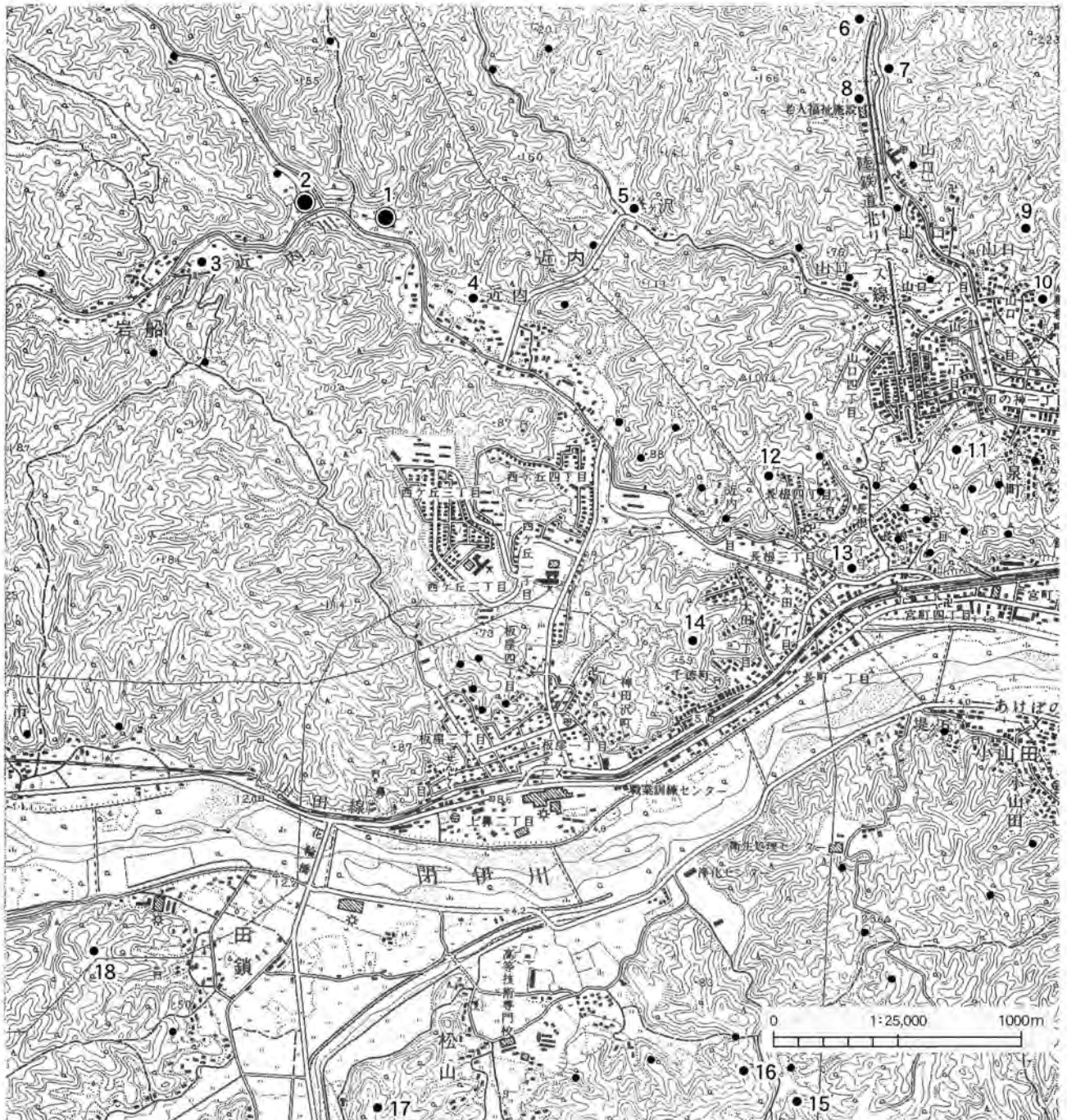
第2図 地形分類図



0 1:50,000 2000m



第3図 地質図



番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	菅ノ沢遺跡	縄文時代・古代	10	黒森町Ⅰ遺跡	近世
2	柵館Ⅰ遺跡	縄文時代	11	狐崎遺跡	縄文時代、奈良時代、平安時代
3	与茂子Ⅰ遺跡	縄文時代	12	青猿Ⅰ遺跡	縄文時代、平安時代
4	近内中村遺跡	縄文時代、弥生、古代	13	長根Ⅰ遺跡	弥生～中世、群集墳
5	蜂ヶ沢Ⅰ遺跡	縄文時代、古代	14	千徳城遺跡群	奈良時代、平安時代、中世
6	牛沢遺跡	縄文時代	15	木戸井内Ⅳ遺跡	縄文時代・古代
7	小平Ⅰ遺跡	縄文時代	16	隠里Ⅷ遺跡	縄文時代
8	高根遺跡	縄文時代	17	松山館跡	古代、中世
9	山口館跡	古代・中世	18	田鎖館跡	中世

第4図 周辺の遺跡分布図

第3章 菅ノ沢遺跡

第1節 調査方法と調査経過

実測・写真撮影・土層注記

トレンチ平面図及び断面図の縮尺は1/20を基本とし、レベルは市道長根岩船線道路改良工事の基準杭をもとに調査区に基準高を設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

整理の方法

調査終了後、トレンチ実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし、第2原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

出土した遺物は現場での取上げ後、埋蔵文化財調査室で水洗いを行い、袋ごとに番号を付した。それを基に遺物台帳を作成し、整理作業の基本台帳とした。

調査経過

<平成15年度 試掘調査>

- 11月12日 調査前の現況を写真撮影した。B・C・Dトレンチを設定した。
- 11月19日 Aトレンチを設定した。トレンチの掘り下げを開始した。
- 11月20日 Eトレンチを設定し、掘り下げを開始した。
- 11月26日 Dトレンチの断面図を作成した。A・Bトレンチの深掘りを開始した。
- 11月27日 B・Cトレンチの断面図を作成した。
- 11月28日 トレンチ平面図を平版で作成した。
- 12月1日 Eトレンチの断面図を作成した。機材を撤収し、調査を終了した。

<平成16年度 試掘調査>

- 11月12日 調査前の現況を写真撮影し、試掘トレンチを設定した。
- 11月15日 トレンチの掘り下げを開始した。
- 11月17日 断面図・平面図の作成を開始した。
- 11月24日 トレンチの完掘状況の写真を撮影した。トレンチの埋め戻しを開始した。
- 11月25日 機材を撤収し、調査を終了した。

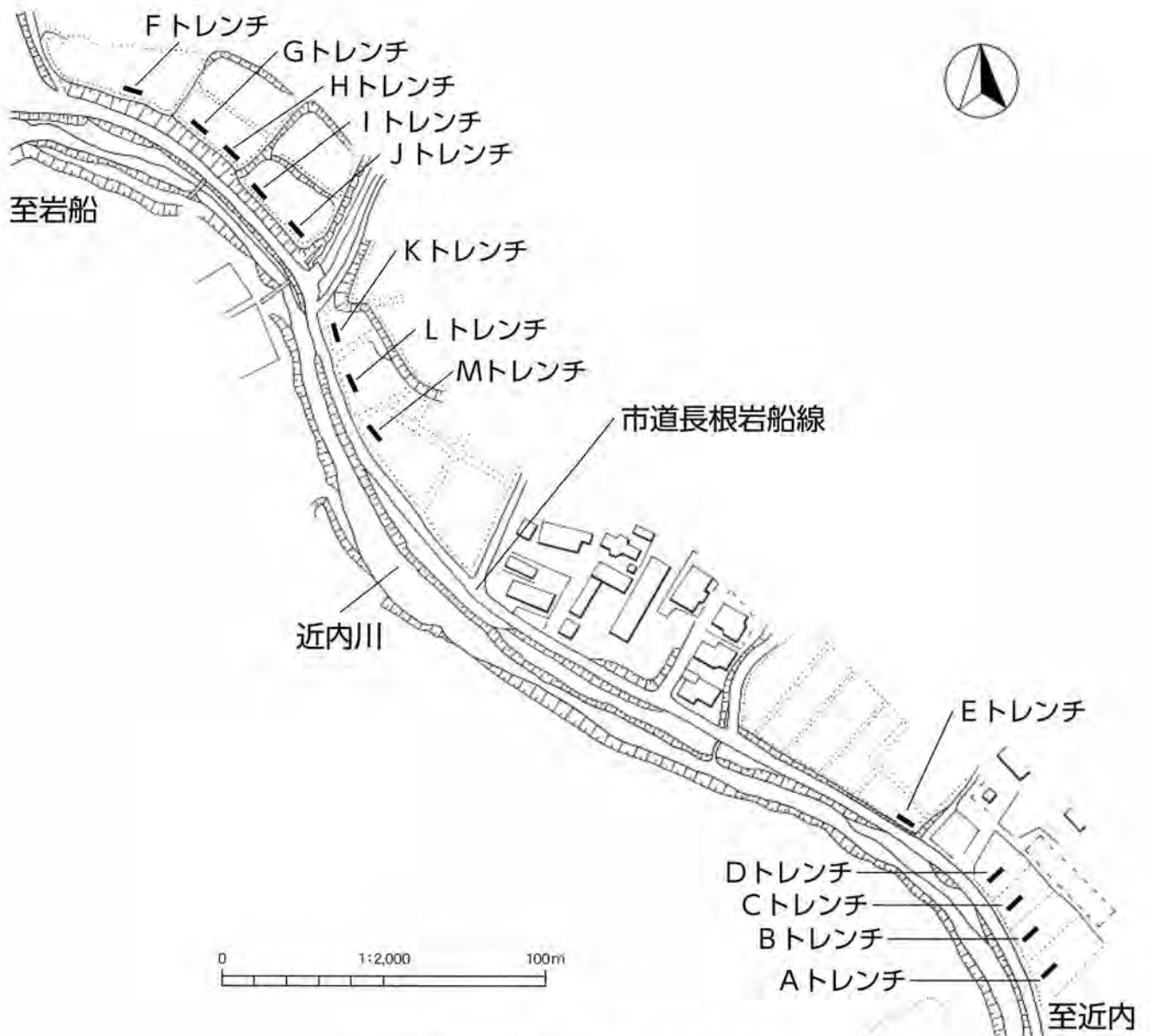
第2節 試掘調査概要

平成15年度 試掘調査

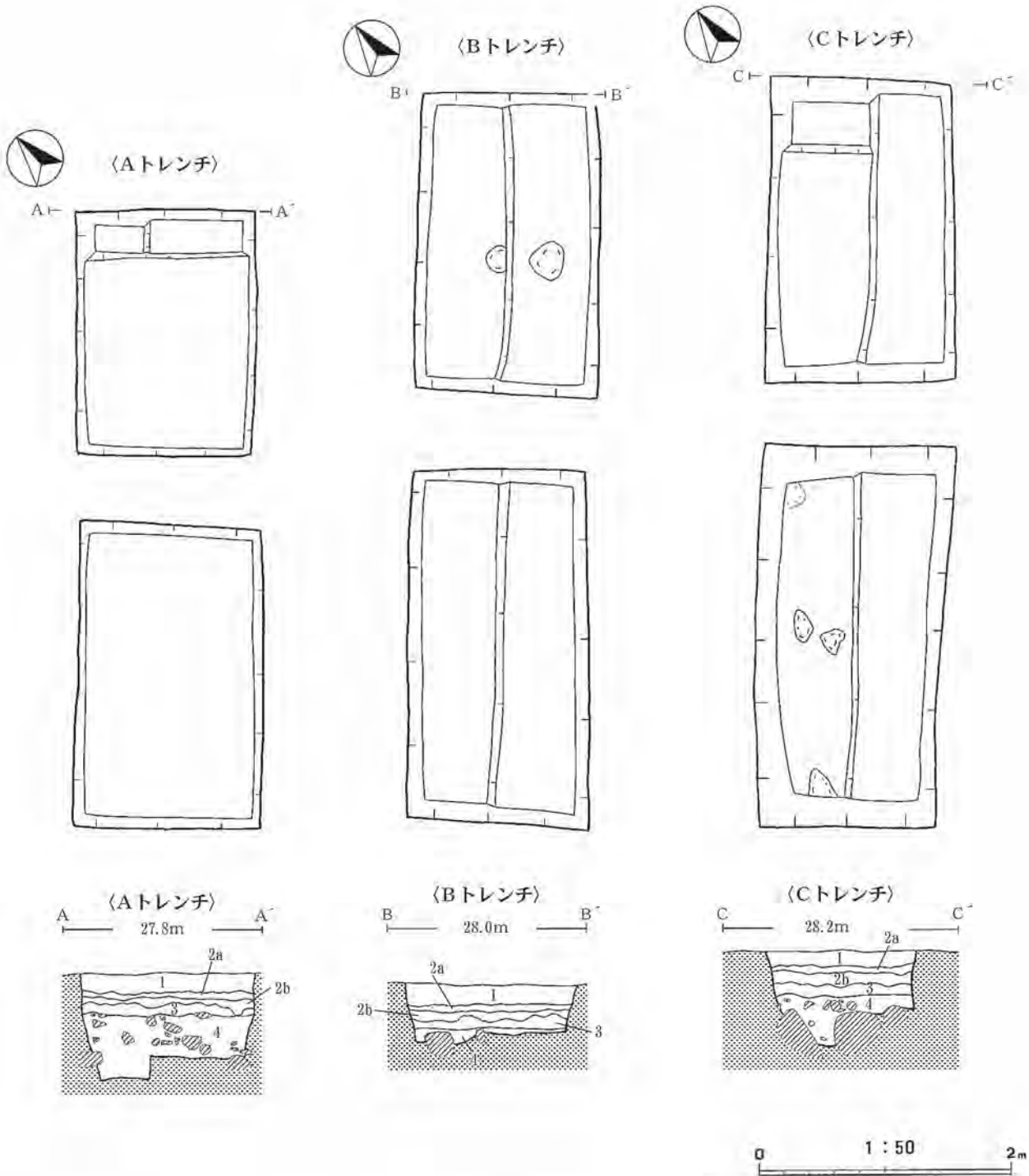
試掘調査地点は近内川の北側に位置し、現況は水田である。近内川と水田の間に現市道長根岩船線が通っている。菅ノ沢遺跡範囲の東端に位置する工事範囲内の5箇所(A～E)にA～Eトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。

Aトレンチ (第5・6図、写真図版4・5)

Aトレンチは菅ノ沢遺跡の東端に位置する水田において設定した。長さ5m、幅1.5mで設定した。堆積土は1層～4層に大別され、さらに2a層・2b層に分けられる。1層は水田の耕作土で、粘性はあるが柔らかい。2層は水田の床土で、酸化せず硬くしまっている2a層と酸化している2b層に分けられる。3層は褐色の基本土中に黒色土が層状及びブロック状に混入しており、盛土層と思わ



第5図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ位置図



A~Eトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田	1 10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土	10YR3/2 黒褐色砂壤土10%層状	硬質、粘性あり
	2a 10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
耕作土	2b 7.5YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土1%塊状	硬質、粘性あり
	2c 10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土30%粒状	硬質、粘性あり
盛土層	3 7.5YR4/4 褐色シルト質埴壤土	10YR2/1 黒色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
砂礫層	4 10YR4/2 灰黄褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土5%塊状	軟質、粘性なし 炭化物少量含まれる

第6図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図 (1)

れる。4層は1 cm～30 cm大の石が多量に含まれ、また砂粒も粗いことから、調査範囲の南側に位置する近内川による水成堆積と考えられる。

Bトレンチ（第5・6図、写真図版6）

BトレンチはAトレンチの西側において、長さ6 m、幅1.5 mで設定した。

堆積土はAトレンチ同様、1層～4層に大別され、さらに2 a層・2 b層に分けられる。1層は水田の耕作土で、粘性はあるが柔らかい。2層は水田の床土で、酸化せず硬くしまっている2 a層と酸化している2 b層に分けられる。3層は盛土層、4層は砂礫層で、水成堆積により30 cm大の石が多量に含まれている。

Cトレンチ（第5・6図、写真図版7・8）

CトレンチはBトレンチの西側において、長さ6 m、幅1.5 mで設定した。

堆積土はAトレンチ同様、1層～4層に大別され、さらに2 a層・2 b層に分けられる。1層は水田の耕作土で、粘性はあるが柔らかい。2層は水田の床土で、酸化せず硬くしまっている2 a層と酸化している2 b層に分けられる。3層は盛土層、4層は砂礫層で、水成堆積により50 cm大の石が多量に含まれている。

Dトレンチ（第5・7図、写真図版9・10）

DトレンチはAトレンチの西側において、長さ5 m、幅1.5 mで設定した。

堆積土はAトレンチ同様、1層～4層に大別され、さらに2 a層・2 b層に分けられる。1層は水田の耕作土で、粘性はあるが柔らかい。2層は水田の床土で、酸化せず硬くしまっている2 a層と酸化している2 b層に分けられる。3層は盛土層、4層は砂礫層で、水成堆積により50 cm大の石が多量に含まれている。

Eトレンチ（第5・7図、写真図版11・12）

EトレンチはDトレンチの西側にある砂利道を挟んでさらに西側の水田において、長さ6 m、幅1.5 mで設定した。

堆積土は1層～4層に大別され、さらに2 a層・2 b層・2 c層に分けられる。1層は水田の耕作土である。2層は水田の床土で、酸化せず硬くしまっている2 a層と酸化している2 b層、さらにやや黒色を呈する2 c層に分けられた。2 c層はEトレンチのみで確認している。3層は盛土層、4層は砂礫層である。

平成16年度 試掘調査

試掘調査地点は平成15年度調査のA地点より約250 m西に位置し、現況は水田である。近内川沿いに現市道長根岩船線が通る。菅ノ沢遺跡の西端に位置する工事範囲内の8箇所にてF～Mトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。

Fトレンチ（第5・8図、写真図版16・17）

Fトレンチは長さ10 m、幅1 mで設定し、現況は水田である。

堆積土は1層～9層に分けられる。1層は水田の耕作土で、ややシルト質を呈する。2層は水田の床土である。3層～7層は盛土層で、8層は褐灰色を呈する自然堆積層である。さらにその下層には砂礫層が堆積している。3層から鉄滓が32.8 g出土している。形態から炉内滓と鍛冶滓と思われる。遺構は確認されなかった。

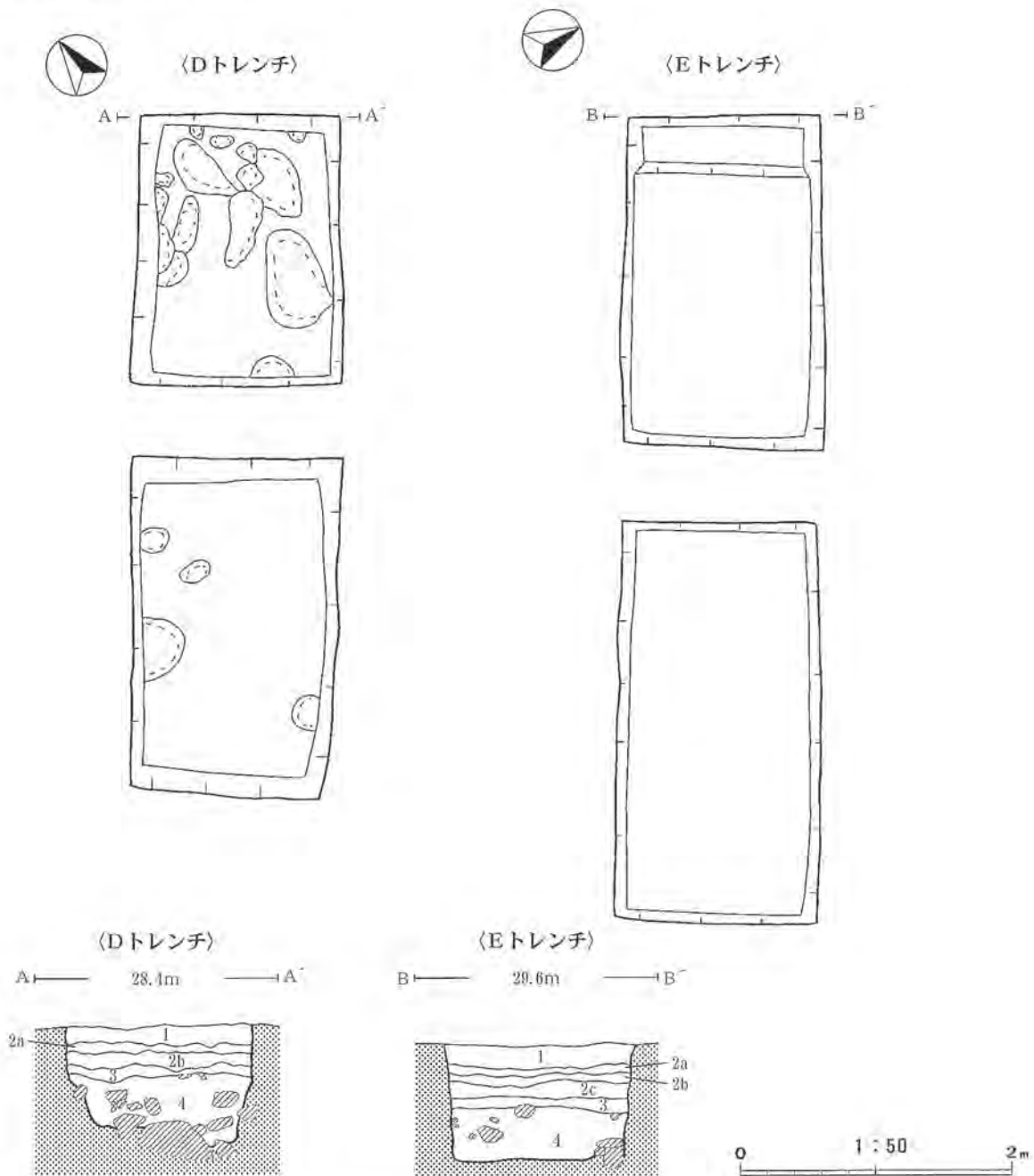
Gトレンチ (第5・8・10図、写真図版18・19・30)

Gトレンチは長さ5m、幅1mで設定し、現況は水田である。

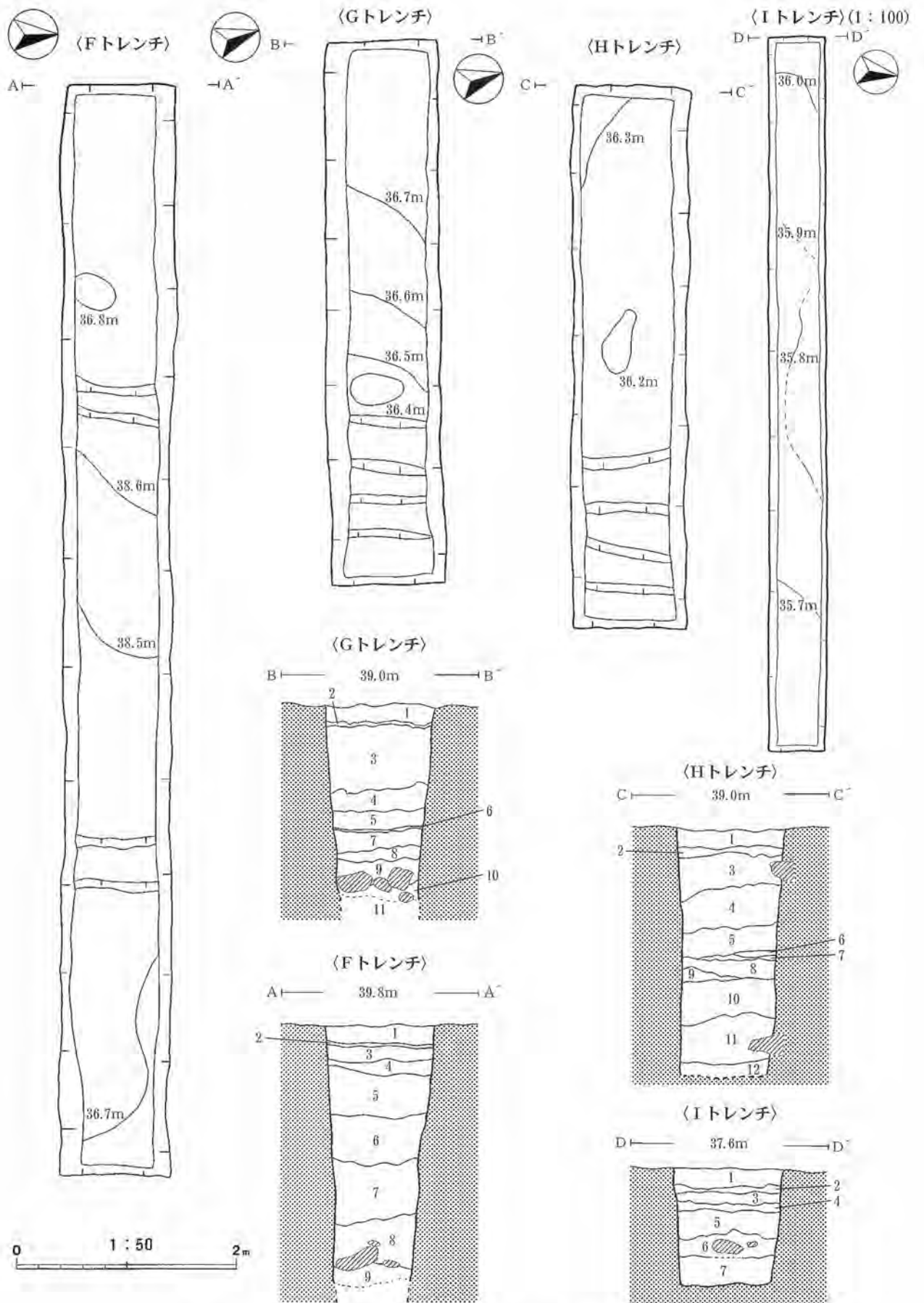
堆積土は1層～11層に分けられる。1層は水田の耕作土で、ややシルト質を呈する。2層は水田の床土である。3層・4層は盛土層で、その下層には旧耕作土(5層)・旧表土(6層)が堆積している。さらに盛土層である7層・8層が堆積し、その下層に自然堆積層である9・10層が堆積している。11層は砂礫層である。

盛土層である3層から縄文土器が出土している。1点を図示している。第10図Iは口縁部破片で、RL単節斜縄文が施文されている。その他、鉄滓が約1,506g出土している。形態から炉内滓・流動滓と思われる。羽口・炉壁も出土しているが、細片のため図示していない。

遺構は確認されなかった。



第7図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(2)



第8図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図 (3)

Hトレンチ (第5・8・10図、写真図版20・21・30)

Hトレンチは長さ5m、幅1mで設定し、現況は水田である。

堆積土は1層～12層に分けられる。1層は水田の耕作土で、ややシルト質を呈する。2層は水田の床土である。3層～6層は盛土層で、その下層には旧表土である7層が堆積している。さらに盛土層である8～10層が堆積している。11層は自然堆積層で、12層は砂礫層である。

盛土層である3層から縄文土器が出土している。1点図示している。第10図5は口縁部破片で、沈線内に刺突が施され、その間にはRL単節・LR単節の縄文が施文されている。破片中央には横位の粘土貼り付けがあり、その上には刺突がみられる。弥生時代後期の土器の可能性もある。さらに2層から石器1点が出土している。第10図8は石匙で、つまみ部は欠損している。その他、鉄滓が2,585g出土している。形態から炉内滓・鍛冶滓と思われる。羽口・炉壁も出土しているが、細片のため図示していない。遺構は確認されなかった。

Iトレンチ (第5・8・10図、写真図版22・23・30)

Iトレンチは長さ13m、幅1mで設定し、現況は水田である。

堆積土は1層～7層に分けられる。1層は水田の耕作土で、ややシルト質を呈する。2層は水田の床土である。3層～5層は盛土層で、旧表土である6層が堆積し、さらに自然堆積層である7層がみられる。各層から鉄滓が多量に出土している。重量は約42.3kgで、形態から炉内滓・流動滓・鍛冶滓と思われる。羽口・炉壁も出土しているが、細片のため図示していない。7層から石器1点が出土している。第10図9は搔器で、腹面に一次剥離面を大きく残している。遺構は確認されなかった。

Fトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1 10YR4/1 褐灰色シルト質堆積土	10YR8/3 浅黄褐色砂礫土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
	2 10YR7/4 にぶい黄褐色砂礫土	10YR6/6 明黄褐色砂礫土5%塊状 10YR7/6 明黄褐色砂礫土5%塊状	硬質、5~10mm大の混入塊
盛土層	3 10YR4/1 褐灰色砂礫土	10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土5%塊状	軟質、5~100mm大の混入塊
	4 10YR4/1 褐灰色砂礫土	10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土30%塊状	軟質、5~100mm大の混入塊
	5 10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土	10YR8/2 灰白色砂礫土1%塊状	軟質、5~10mm大の混入塊
	6 10YR7/1 灰白色砂礫土	10YR8/2 灰白色砂礫土1%塊状	軟質、5~50mm大の混入塊
	7 10YR6/2 灰黄褐色砂礫土	10YR4/1 褐灰色砂礫土5%塊状	軟質、2~10mm大の混入塊
自然堆積層	8 10YR4/1 褐灰色砂礫土	10YR6/2 灰黄褐色砂礫土1%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊
砂礫層	9 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR4/1 褐灰色砂礫土10%塊状 10YR7/2 にぶい黄褐色10%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊

Hトレンチ 土層観察表

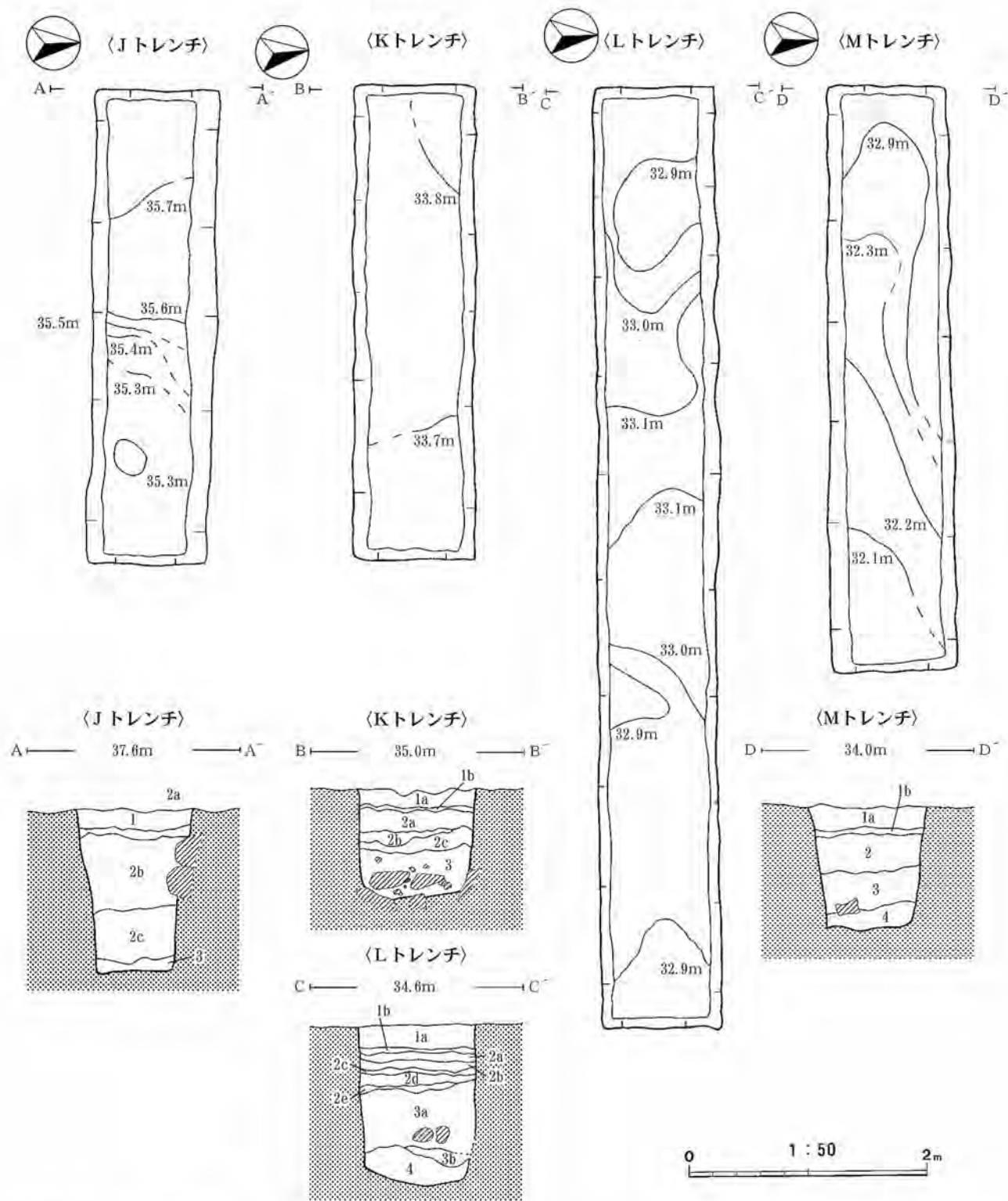
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1 10YR4/1 褐灰色シルト質堆積土	10YR8/3 浅黄褐色砂礫土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
	2 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR6/6 明黄褐色砂礫土5%塊状 10YR7/6 明黄褐色砂礫土5%塊状	硬質、5~10mm大の混入塊
盛土層	3 10YR7/3 にぶい黄褐色砂礫土	10YR4/1 褐灰色砂礫土5%塊状 10YR7/3 にぶい黄褐色砂礫土5%塊状	軟質、5~100mm大の混入塊
	4 10YR6/1 褐灰色砂礫土	10YR5/1 褐灰色砂礫土5%塊状 10YR5/2 灰黄褐色砂礫土5%塊状	軟質、10~50mm大の混入塊
	5 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR4/1 褐灰色砂礫土5%塊状	軟質、2~10mm大の混入塊
	6 10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土	10YR7/1 灰白色砂礫土1%塊状	軟質、5~10mm大の混入塊
	7 10YR4/1 褐灰色砂礫土	10YR8/1 灰白色砂礫土1%粒状 10YR7/2 にぶい黄褐色1%粒状	硬質、2~5mm大の混入粒
旧表土	8 10YR6/2 灰黄褐色砂礫土	10YR8/3 浅黄褐色砂礫土1%粒状	軟質、2~5mm大の混入粒
	9 10YR6/1 褐灰色砂礫土	10YR6/2 灰黄褐色砂礫土1%粒状	軟質、2mm大の混入粒
	10 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR6/1 褐灰色砂礫土5%粒状	軟質、2~5mm大の混入粒
自然堆積層	11 10YR4/1 褐灰色砂礫土	10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土1%塊状	軟質、1~2mm大の混入粒
砂礫層	12 10YR7/3 にぶい黄褐色堆積砂土	-	100~500mm大の塊含まれる

Gトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1 10YR4/1 褐灰色シルト質堆積土	10YR8/3 浅黄褐色砂礫土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
	2 10YR7/4 にぶい黄褐色砂礫土	10YR6/6 明黄褐色砂礫土5%塊状 10YR7/6 明黄褐色砂礫土5%塊状	硬質、5~10mm大の混入塊
盛土層	3 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR4/1 褐灰色砂礫土5%塊状 10YR7/3 にぶい黄褐色5%塊状	軟質、5~100mm大の混入塊
	4 10YR4/1 褐灰色砂礫土	10YR5/1 褐灰色砂礫土10%塊状	軟質、10~100mm大の混入塊
旧耕作土	5 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR4/1 褐灰色砂礫土5%塊状	軟質、5~10mm大の混入塊
旧表土	6 10YR7/1 灰白色砂礫土	10YR5/1 褐灰色砂礫土1%塊状 10YR6/1 褐灰色砂礫土1%塊状	やや硬質、2~5mm大の混入塊
	7 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR6/1 褐灰色砂礫土5%塊状 10YR7/3 にぶい黄褐色砂礫土5%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊
盛土層	8 10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土	10YR4/1 褐灰色砂礫土1%塊状 10YR5/1 褐灰色砂礫土1%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊
	9 10YR4/1 褐灰色砂礫土	10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土1%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊
自然堆積層	10 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR4/1 褐灰色砂礫土1%塊状 10YR5/1 褐灰色砂礫土1%塊状	軟質、2~10mm大の混入塊
砂礫層	11 10YR7/3 にぶい黄褐色砂礫土	-	100~500mm大の塊

Iトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1 10YR4/1 褐灰色シルト質堆積土	10YR8/3 浅黄褐色砂礫土1%	軟質、1~10mm大の混入塊
	2 10YR7/4 にぶい黄褐色砂礫土	10YR6/6 明黄褐色砂礫土5%塊状 10YR7/6 明黄褐色砂礫土5%塊状	硬質、5~10mm大の混入塊
盛土層	3 10YR7/3 にぶい黄褐色砂礫土	10YR7/1 灰白色砂礫土5%塊状 10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土5%塊状	やや硬質、5~50mm大の混入塊
	4 10YR6/1 褐灰色砂礫土	10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土5%塊状	軟質、2~10mm大の混入塊
	5 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR7/1 灰白色砂礫土10%塊状 10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土10%塊状	軟質、2~10mm大の混入塊
旧表土	6 10YR4/1 褐灰色砂礫土	10YR7/1 灰白色砂礫土1%塊状 10YR7/2 にぶい黄褐色砂礫土1%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊
	7 10YR5/1 褐灰色砂礫土	10YR6/2 灰黄褐色砂礫土5%塊状 10YR6/3 灰黄褐色砂礫土5%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊



Jトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1 10YR4/1 褐灰色シルト質礫壤土	10YR8/3 浅黄褐色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
盛土層	2a 10YR7/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/1 褐灰色砂壤土1%塊状	硬質、2~5mm大の混入塊
	2b 10YR5/1 褐灰色砂壤土	10YR7/4 にぶい黄褐色砂壤土10%塊状	軟質、100~500mm大の混入塊
砂礫層	2c 10YR4/1 褐灰色砂壤土	10YR7/2 にぶい黄褐色砂壤土1%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊
	3 10YR7/2 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/1 褐灰色砂壤土1%塊状 10YR7/3 にぶい黄褐色砂壤土1%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊

Kトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1a 10YR4/1 褐灰色シルト質礫壤土	10YR8/4 浅黄褐色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
盛土層	1b 10YR4/1 褐灰色砂壤土	10YR8/4 浅黄褐色砂壤土1%粒状	硬質、1~2mm大の混入粒
	2a 10YR7/2 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/4 浅黄褐色砂壤土3%粒状	硬質、1~5mm大の混入塊
砂礫層	2b 10YR7/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR6/1 褐灰色砂壤土1%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊
	2c 10YR6/1 褐灰色砂壤土	10YR7/1 灰白色砂壤土5%塊状 10YR7/2 にぶい黄褐色5%塊状	軟質、5~20mm大の混入塊
砂礫層	3 10YR5/1 褐灰色礫質砂土	-	100~500mm大の塊含まれる

第9図 菅ノ沢遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図 (4)

Jトレンチ (第5・9・10図、写真図版24・25・30)

Jトレンチは長さ4m、幅1mで設定し、現況は水田である。

堆積土は1層～3層に分けられる。1層は水田の耕作土で、2a層～2c層は盛土層である。その下層は砂礫層である3層が堆積している。

砂礫層である3層から縄文土器が出土し、そのうち4点を図示している。第10図2・3は胴部破片で、縄文が施文されているが、磨滅のため詳細は不明である。第10図4・6は胴部破片で、内外面ともにナデ調整で、第10図6のみ沈線が横方向に引かれ、その線にそって赤彩が施されている。所属時期は縄文時代晩期と思われる。2・3層から鉄滓が5,085g出土している。形態から炉内滓・流動滓・鍛冶滓と思われる。羽口・炉壁も出土しているが、細片のため図示していない。遺構は確認されなかった。

Kトレンチ (第5・9図、写真図版26)

Kトレンチは長さ4m、幅1mで設定し、現況は水田である。

堆積土は1層～3層に分けられる。1a層は水田の耕作土で、ややシルト質を呈する。1b層は水田の床土である。2a層～2c層は盛土層で、その下層には砂礫層である3層が堆積している。3層から鉄滓が74g出土している。全トレンチの中で最も少ない。遺構は確認されなかった。

Lトレンチ (第5・9・10図、写真図版27・30)

Lトレンチは長さ8m、幅1mで設定し、現況は水田である。

堆積土は1層～4層に分けられる。1a層は水田の耕作土で、ややシルト質を呈する。1b層は水田の床土である。2a層～2e層は盛土層で、各層の層厚は薄い。3a層・3b層は自然堆積層である。さらに下層の4層は砂礫層である。盛土層から鉄滓が約10.1kg出土している。形態から炉内滓・椀形鍛冶滓と思われる。羽口・炉壁も出土しているが、細片のため図示していない。2c層から石器1点が出土している。第10図7は石鎌で、平基無茎の形態をもち、両面に丁寧な調整剥離が施されている。遺構は確認されなかった。

Mトレンチ (第5・9図、写真図版28・29)

Mトレンチは長さ5m、幅1mで設定し、現況は水田である。

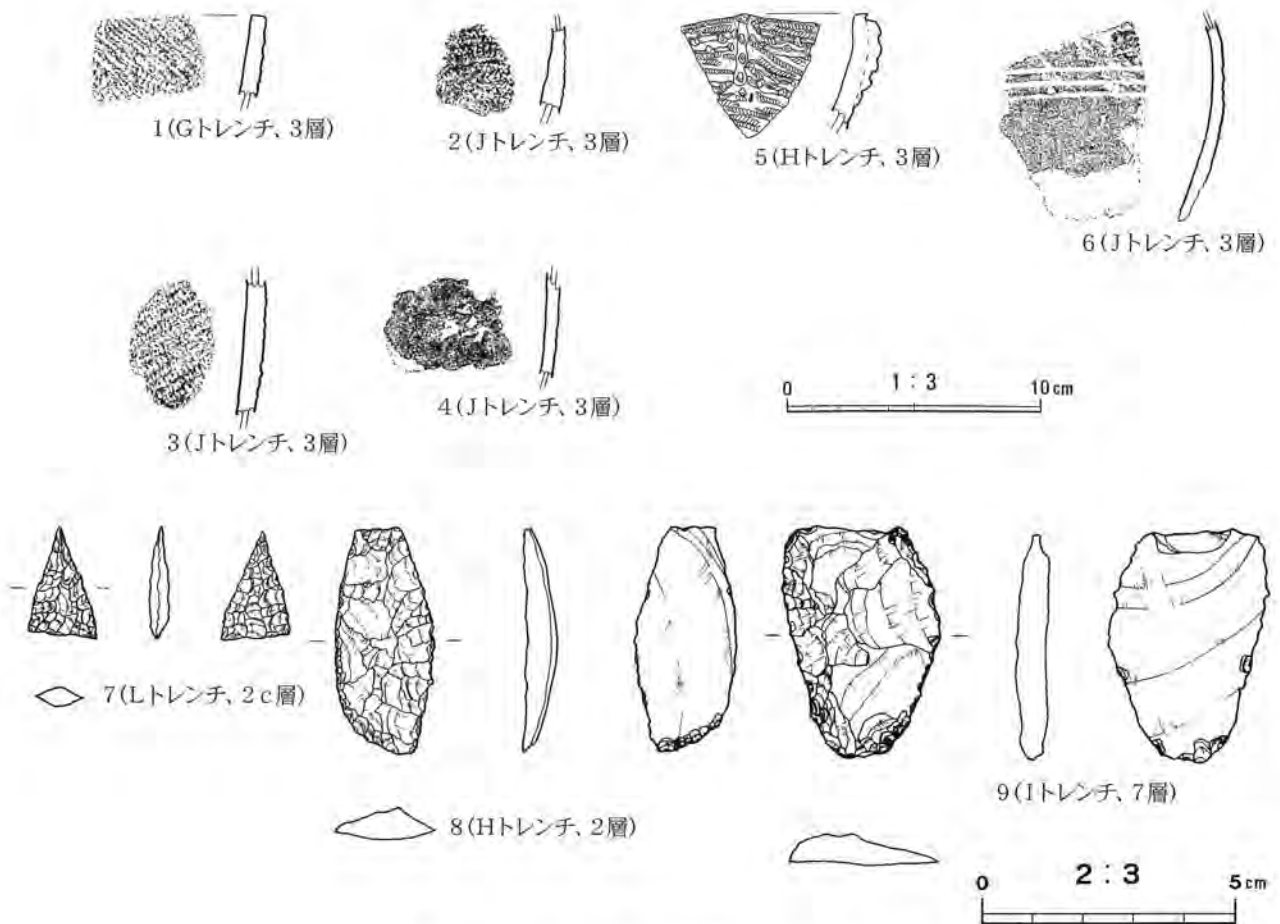
堆積土は1層～4層に分けられる。1a層は水田の耕作土で、ややシルト質を呈する。1b層は水田の床土である。2層は盛土層で、3層は自然堆積層である。さらに下層の4層は砂礫層である。盛土層中から鉄滓が約23.9kg出土している。形態から炉内滓・流動滓・鍛冶滓と思われる。羽口・炉壁も出土しているが、細片のため図示していない。遺構は確認されなかった。

Lトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1a 10YR4/1 褐灰色シルト質埋埋土	10YR8/4 浅黄褐色砂壤土5%粒状	軟質、2~5mm大の混入粒
	1b 10YR2/1 黒褐色砂壤土	10YR8/4 浅黄褐色砂壤土1%粒状	硬質、2~5mm大の混入粒
盛土層	2a 10YR6/1 褐灰色砂壤土	10YR8/4 浅黄褐色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
	2b 10YR6/2 灰黄褐色砂壤土	10YR6/1 褐灰色砂壤土1%塊状	軟質、2~5mm大の混入塊
	2c 10YR6/1 褐灰色砂壤土	10YR5/1 褐灰色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
		10YR6/2 灰黄褐色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
	2d 10YR6/2 灰黄褐色砂壤土	10YR6/1 褐灰色砂壤土1%粒状 10YR6/3 にぶい黄褐色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
2e 10YR6/3 にぶい黄褐色埋埋砂土	10YR8/1 灰白色砂壤土50%粒状	軟質、2~5mm大の混入粒	
自然堆積層	3a 10YR5/1 褐灰色砂壤土	10YR6/2 灰黄褐色砂壤土1%粒状 10YR6/3 にぶい黄褐色1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
	3b 10YR5/2 灰黄褐色砂壤土	10YR5/3 にぶい黄褐色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
砂礫層	4 10YR5/3 にぶい黄褐色埋埋砂土	-	100~1000mm大の礫含まれる

Mトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1a 10YR4/1 褐灰色シルト質埋埋土	10YR8/3 浅黄褐色砂壤土1%塊状	軟質、1~10mm大の混入塊
	1b 10YR7/2 にぶい黄褐色砂壤土	10YR8/3 浅黄褐色砂壤土10%粒状	硬質、1~2mm大の混入粒
盛土層	2 10YR4/1 褐灰色砂壤土	10YR8/3 浅黄褐色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
自然堆積層	3 10YR3/1 黒褐色砂壤土	10YR7/2 にぶい黄褐色砂壤土1%粒状	軟質、1~2mm大の混入粒
砂礫層	4 10YR7/3 にぶい黄褐色埋埋砂土	-	10~500mm大の礫含まれる



第10図 盛土・水成堆積層 出土遺物

菅ノ沢遺跡 盛土・水成堆積層 土器観察表

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文様(外面)	内面調整	胎土	備考
第10図	1	Gトレンチ	3層	口縁部	R L単節斜縄文	ナデ	砂粒	
第10図	2	Jトレンチ	3層	胴部	磨滅のため不明	ナデ	砂粒	
第10図	3	Jトレンチ	3層	胴部	L R単節斜縄文	ナデ	砂粒	
第10図	4	Jトレンチ	3層	胴部	ナデ, 磨滅	ナデ	砂粒	
第10図	5	Hトレンチ	3層	口縁部	L R単節・R L単節縄文, 刺突	ナデ	砂粒	
第10図	6	Jトレンチ	3層	胴部	ナデ, 沈線	ナデ	砂粒	沈線に朱塗

菅ノ沢遺跡 盛土・水成堆積層 石器観察表

挿図番号	番号	出土地点	層位	器種	現存する規模 (cmまたはg)				備考
					最大長	最大幅	最大厚	重量	
第10図	7	Lトレンチ	2c層	石鏃	2.2	1.4	0.4	1.1	
第10図	8	Hトレンチ	2層	石匙	(4.5)	2.0	0.6	5.8	つまみ部欠損
第10図	9	Iトレンチ	7層	搔器	3.0	3.0	0.6	10.4	



1. 菅ノ沢遺跡 航空写真 (西→)



2. 調査前現況 (A~Dトレンチ) (南東→)



3. 調査前現況 (Eトレンチ) (東→)



4. Aトレンチ 完掘状況 (南→)



5. Aトレンチ 堆積状況 (南→)



6. Bトレンチ 完掘状況 (南→)



7. Cトレンチ 完掘状況 (南→)



8. Cトレンチ 堆積状況 (東→)



9. Dトレンチ 完掘状況 (南→)



10. Dトレンチ 堆積状況 (南→)



11. Eトレンチ 完掘状況 (西→)



12. Eトレンチ 堆積状況 (西→)



13. 平成15年度 調査風景 (西→)



14. 平成16年度 調査前現況 (東→)



15. 平成16年度 調査風景 (西→)



16. Fトレンチ 完掘状況 (東→)



17. Fトレンチ 堆積状況 (西→)



18. Gトレンチ 完掘状況 (東→)



19. Gトレンチ 堆積状況 (東→)



20. Hトレンチ 完掘状況 (東→)



21. Hトレンチ 堆積状況 (東→)



22. Iトレンチ 完掘状況 (東→)



23. Iトレンチ 堆積状況 (東→)



24. Jトレンチ 完掘状況 (東→)



25. Jトレンチ 堆積状況 (東→)



26. Kトレンチ 完掘状況 (南→)



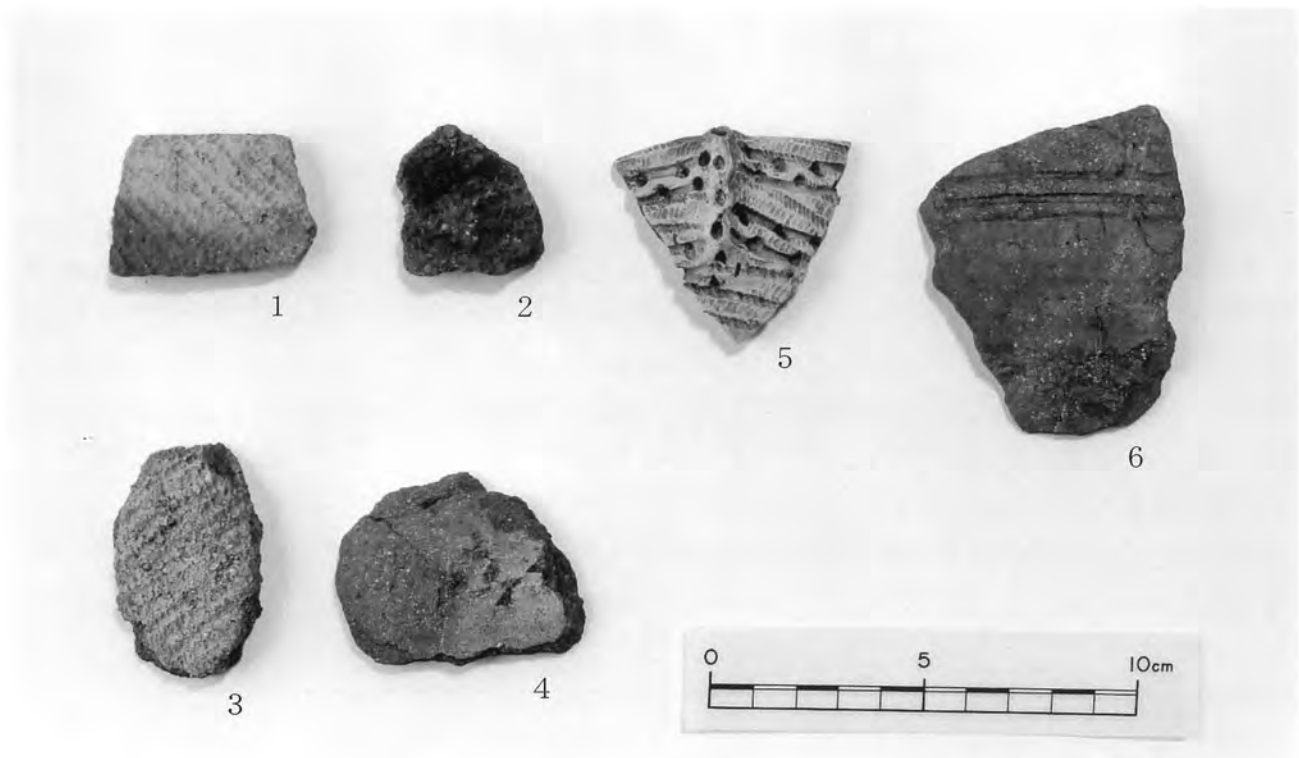
27. Lトレンチ 完掘状況 (東→)



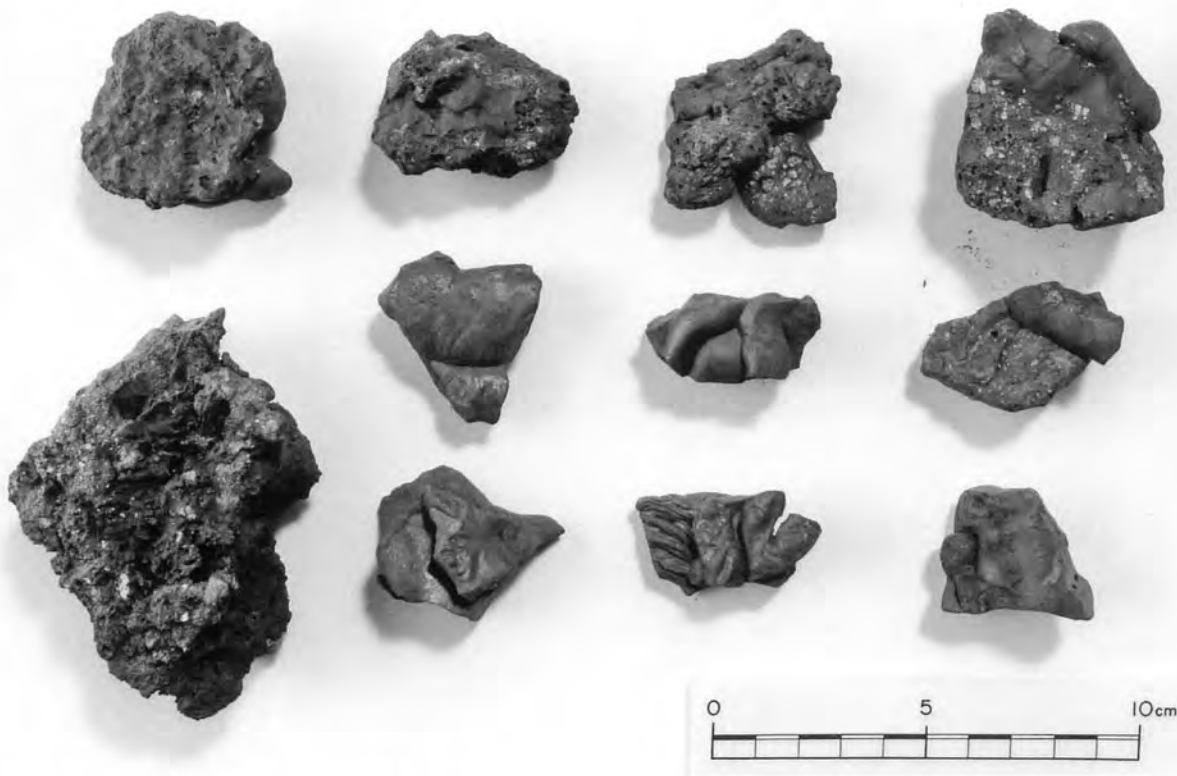
28. Mトレンチ 完掘状況 (東→)



29. Mトレンチ 堆積状況 (東→)



30. 盛土・水成堆積層 出土遺物 (1)



31. 盛土・水成堆積層 出土遺物 (2)

第4章 柵館Ⅰ遺跡

第1節 調査方法と調査経過

実測・写真撮影・土層注記

試掘トレンチ平面図及び断面図の縮尺は1/20を基本とし、レベルは市道長根岩船線道路改良工事の基準杭をもとに調査区に基準高を設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

整理の方法

調査終了後、試掘トレンチ実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし、第2原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

調査経過

<平成18年度 試掘調査>

- 7月20日 調査前現況を写真撮影し、Aトレンチを設定した。
- 7月21日 B～Jトレンチを設定し、掘り下げを開始した。
- 8月2日 Bトレンチの写真撮影を行い、土層注記などを開始した。
- 8月7日 Aトレンチの断面図を作成した。
- 8月8日 トレンチの断面図を作成した。
- 8月11日 トレンチの平面図を平板で作成した。
- 8月17日 機材を撤収し、調査を終了した。

<平成19年度 試掘調査>

- 10月15日 調査前現況を写真撮影し、トレンチを3箇所(K～Mトレンチ)設定した。
- 10月16日 K～Mトレンチの掘り下げを開始した。
- 10月17日 K・Lトレンチの断面図を作成した。
- 10月18日 Mトレンチの断面図を作成した。トレンチの埋め戻しを開始した。
- 10月19日 トレンチの埋め戻し終了。機材を撤収し調査を終了した。

第2節 試掘調査概要

平成18年度 試掘調査

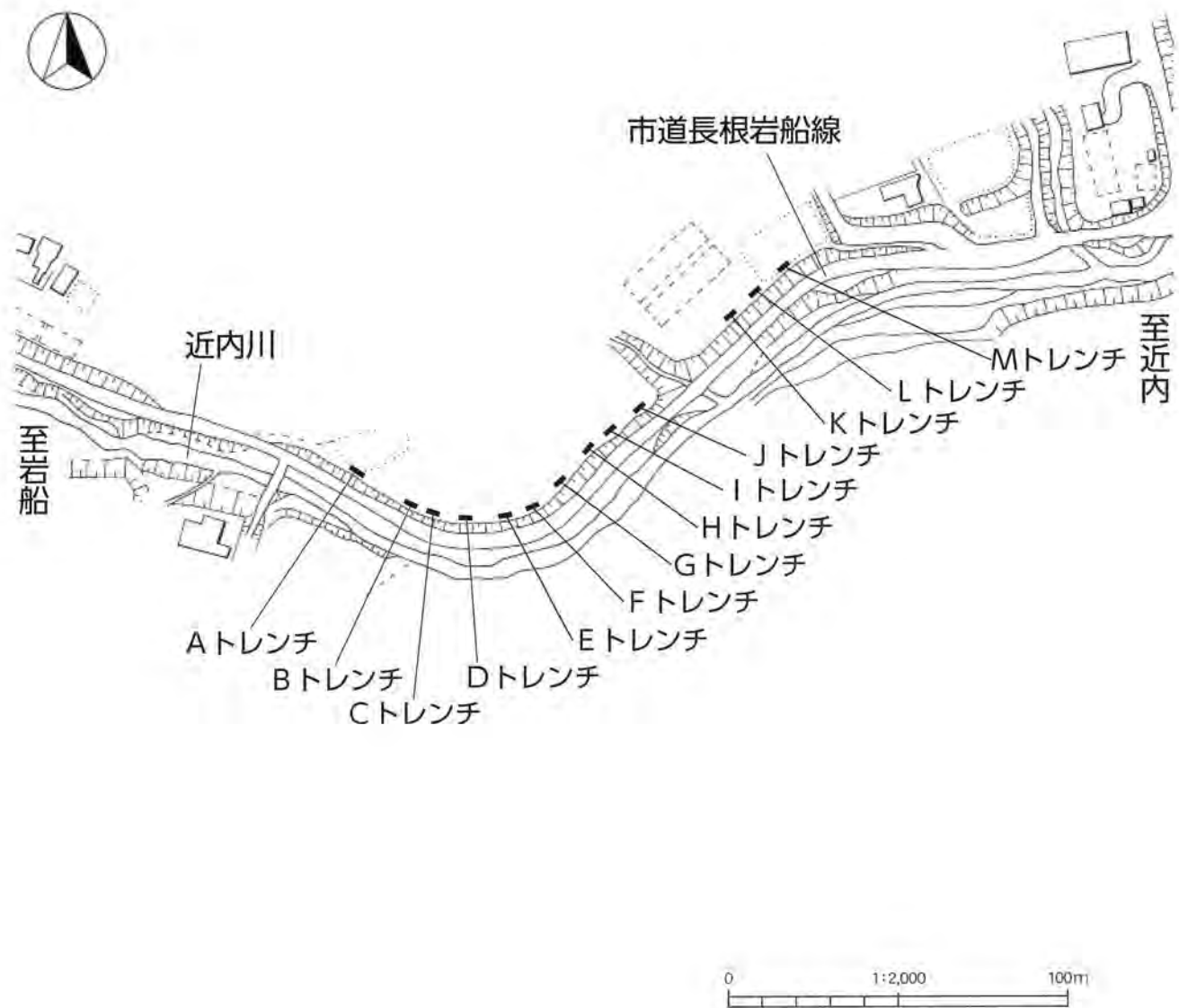
柵館Ⅰ遺跡の平成18年度試掘調査は、遺跡範囲の西端周辺にかかる工事範囲内において実施され、調査対象区間は約110mである。その区間に試掘トレンチを10箇所(A～Jトレンチ)設定し、遺構・遺物の確認を行った。現況は旧水田による平坦面が広がり、現市道との間には約2mの比高差がある。さらに現市道の南側には近内川が流れる。

Aトレンチ (第11・12図、写真図版34)

Aトレンチは調査対象範囲の西端に長さ5m、幅1mで設定した。堆積土は1層～4層に分けられる。1層は表土でやや砂質を呈する。2層は黒色を呈する埴壤土で、層厚は約8cmと薄い。3層は黒褐色を呈する埴壤土であるが、礫が含まれている。4層は礫層である。礫の密度が高く約50cmで掘り下げを断念した。礫と礫の間には水成堆積による粗砂が堆積している部分があり、調査地点の南側を東流する近内川による作用と考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。

Bトレンチ (第11・12図、写真図版35)

Bトレンチは長さ2.8m、幅1mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～5層に分けられ、1層は水田作土層で、2層は水田の床土である。3層と4層は黒色及び黒褐色を呈する砂質埴壤土である。5層は礫層で近内川による水成堆積と考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。



第11図 柵館I遺跡 試掘トレンチ位置図

Cトレンチ (第11・12図、写真図版36)

Cトレンチは長さ2.5m、幅1mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～5層に分けられる。1層は水田作土層で、2層は水田の床土である。3層は黒褐色を呈する砂質埴壤土、4層は暗褐色を呈する砂層である。ともに層厚は約10cmと薄い。5層は砂層で約1.8m地点まで掘り下げたがさらに下層まで堆積していると考えられる。2層の水田床土から縄文土器が1点出土しているが、小破片のため図示できなかった。遺構は確認されなかった。

Dトレンチ (第11・12・15図、写真図版37・48)

Dトレンチは長さ2.5m、幅1mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～5層に大別され、5層はさらに5a層～5c層に細別される。1層は水田作土層で、2層は水田の床土である。3層は黒褐色を呈する砂壤土、4層は黒色を呈する砂質埴壤土で、ともに盛土層である。5a層～5c層は礫層で、礫の間には細砂粒が観察され水成堆積と考えられる。

4層中から縄文土器が4点出土しているが水成堆積中であるため原位置はとどめていないと思われる。4点中2点を図示している。第15図1は口縁部破片で口縁端部までR.L.単節斜縄文が施されている。第15図2は胴部破片で、磨滅のため不明瞭ではあるが単節斜縄文が施されている。ともに胎土に繊維が含まれ、所属時期は縄文時代前期前半と考えられる。

遺構は確認されなかった。

Eトレンチ (第11・13図、写真図版38)

Eトレンチは長さ1.6m、幅1mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～5層に大別され、3層はさらに3a層・3b層に細別される。1層は水田作土層で、2層は水田の床土である。3a層・3b層は盛土層で、礫が多数混入している。4層は黒褐色を呈する砂質埴壤土で、3層同様盛土と思われる。5層は礫層で、礫の密度が高く約2m地点まで掘り下げを行った。遺構・遺物は確認されなかった。

Fトレンチ (第11・13図、写真図版39)

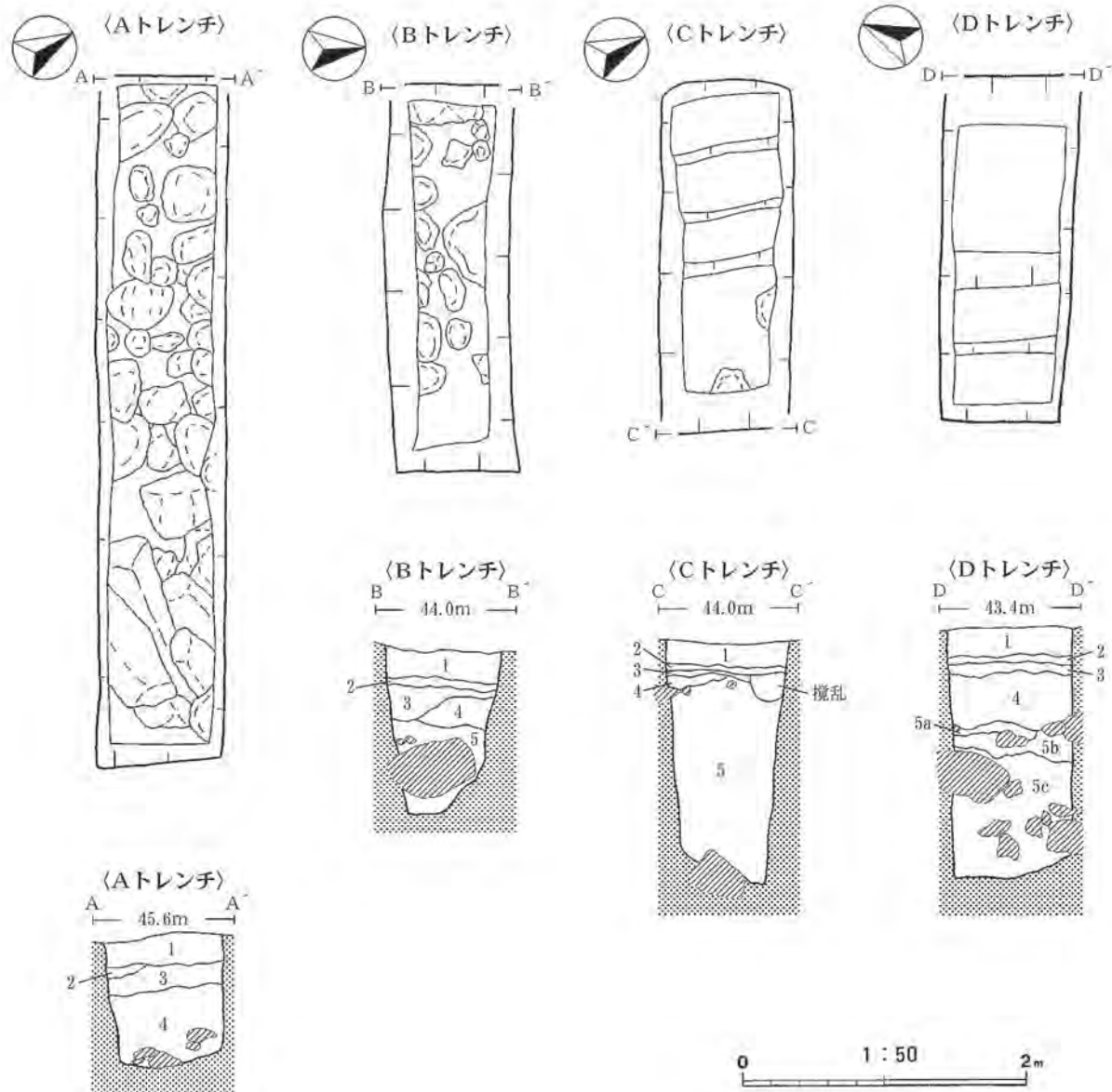
Fトレンチは長さ1.8m、幅1mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～4層に大別され、3層はさらに3a層・3b層に細別される。1層は水田作土層で、2層は水田の床土である。3a層・3b層は盛土層で3b層にはマサ土塊が混入している。4層は礫層である。遺構・遺物は確認されなかった。

Gトレンチ (第11・13図、写真図版40)

Gトレンチは長さ2.3m、幅1mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～6層に大別され、4層はさらに4a層・4b層に細別される。1層は水田作土層、2層は水田の床土である。3層は黒色を呈する砂質埴壤土で、盛土層である。4a・4b層は礫が多量に含まれている盛土層である。5層は黒色を呈する砂質埴壤土で、旧表土もしくは自然堆積土の可能性がある。6層は暗褐色を呈する砂層で、深さ約2.2m地点まで掘り下げを行った。6層は堆積状況から水成堆積によるものと考えられる。4a層から縄文土器が1点、5層から縄文土器が3点出土しているが、小破片のため図示できなかった。遺構は確認されなかった。

Hトレンチ (第11・13図、写真図版41)

Hトレンチは長さ2.3m、幅1mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～5層に大別され、4層はさらに4a層～4c層に細別される。1層は水田作土層で、2層は水田の床土である。3層は黒色を呈する埴壤土である。4a層～4c層は砂層で、礫が少量含まれている。5層



Aトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土層	1 10YR2/2 黒褐色壤質砂土	10YR2/3 黒褐色砂土20%層状	やや硬質、粘性ややあり
自然 堆積層	2 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土30%塊状	硬質、粘性あり 2mm大の小礫
	3 10YR2/3 黒褐色埴土	10Y2/2 黒褐色埴土10%塊状	硬質、粘性あり
砂礫層	4 10YR2/2 黒褐色砂質埴土	10YR2/3 黒褐色砂質埴土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり 礫多量

Cトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田 耕作土	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/2 黒褐色砂質埴土5%塊状	硬質、粘性あり
	2 10YR2/1 黒色砂質埴土	7.5YR2/3 暗褐色砂質埴土10%粒状	硬質、粘性あり
自然 堆積層	3 10YR2/2 黒褐色砂質埴土	10YR2/3 黒褐色砂質埴土5%塊状	硬質、粘性あり
砂層	4 10YR2/3 暗褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土10%塊状	やや硬質、粘性なし
	5 10YR4/4 褐色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土10%層状	軟質、粘性なし

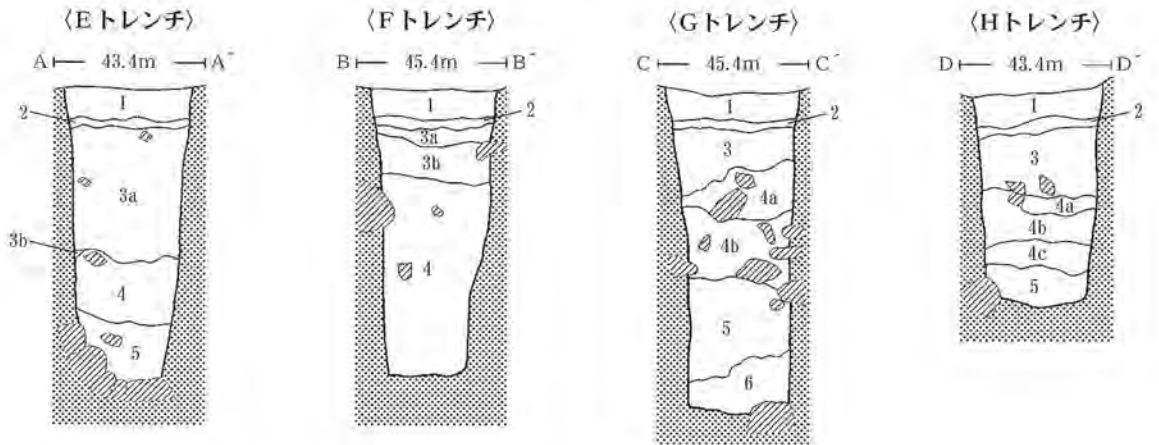
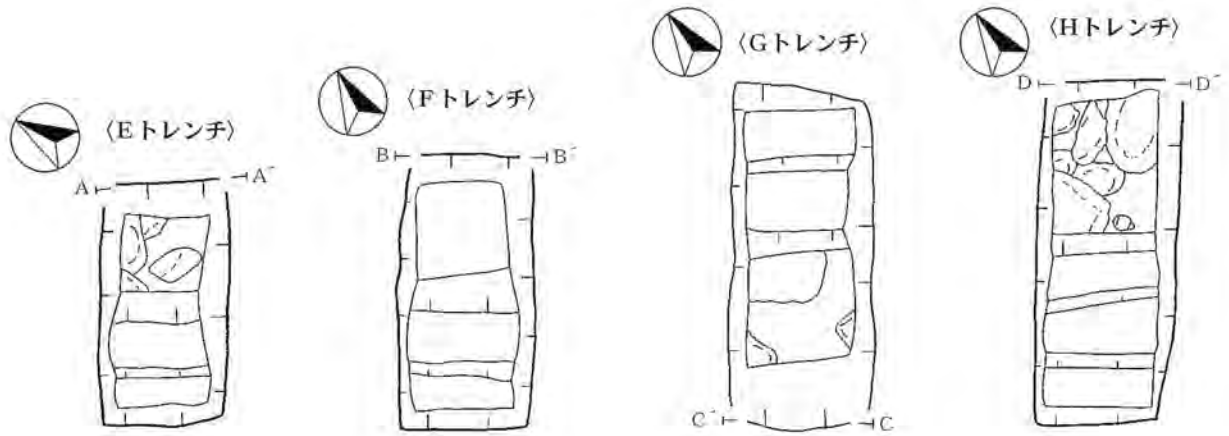
Bトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田	1 10YR2/2 黒褐色砂質埴土	10YR3/4 暗褐色砂質埴土1%粒状	軟質、粘性ややあり
耕作土	2 10YR2/2 黒褐色砂質埴土	7.5YR3/3 暗褐色壤質砂土20%粒状	硬質、粘性あり
自然 堆積層	3 10YR2/1 黒色砂質埴土	10YR4/4 褐色砂質埴土10%粒状	硬質、粘性あり
	4 10YR2/3 黒褐色砂質埴土	10YR2/2 黒褐色砂質埴土5%粒状	硬質、粘性あり
砂礫層	5 10YR6/4 にぶい黄褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土10%塊状	軟質、粘性なし 20~30cm大の礫多量

Dトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
水田	1 10YR2/2 黒褐色砂質埴土	10YR4/4 褐色砂質埴土1%塊状	硬質、粘性あり	
耕作土	2 10YR2/3 黒褐色砂質埴土	7.5YR2/2 黒褐色砂質埴土10%塊状	硬質、粘性あり	
	3 10YR2/2 黒褐色砂質埴土	10YR2/3 黒褐色砂質埴土10%塊状	硬質、粘性あり	
盛土層	4 10YR2/1 黒色砂質埴土	10YR2/2 黒褐色砂質埴土5%粒状	硬質、粘性あり	
	5a 10YR2/1 黒色砂質埴土	10YR4/4 褐色砂質埴土20%粒状	やや硬質、粘性なし	
	5b 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%粒状	やや硬質、粘性ややあり	
	砂礫層	5c 10YR2/2 黒褐色砂質埴土	10YR3/4 暗褐色砂質埴土10%粒状	やや硬質、粘性ややあり
			10YR2/1 黒色埴土10%粒状	

第12図 柵館I遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(1)



Eトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田	1 10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	10YR2/1 黒色砂質埴壤土1%塊状	硬質、粘性あり
耕作土	2 10YR2/3 黒褐色砂質埴壤土	7.5YR2/2 黒褐色砂質埴壤土20%塊状	硬質、粘性あり
盛土層	3a 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/2 黒褐色砂土10%粒状 10YR4/4 褐色砂土20%粒状	やや硬質、粘性なし
	3b 10YR2/2 黒褐色砂土	10YR2/1 黒色砂土10%塊状	やや硬質、粘性なし
砂礫層	4 10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	10YR2/1 黒色砂質埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし
	5 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし

Fトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田	1 10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	10YR2/1 黒色砂質埴壤土1%塊状	硬質、粘性あり
耕作土	2 10YR2/3 黒褐色砂質埴壤土	7.5YR2/2 黒褐色砂質埴壤土20%塊状	硬質、粘性あり
盛土層	3a 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/2 黒褐色砂土10%粒状 10YR4/4 褐色砂土20%粒状	やや硬質、粘性なし
	3b 10YR2/2 黒褐色砂土	10YR2/1 黒色砂土10%塊状	やや硬質、粘性なし
砂礫層	4 10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	10YR2/1 黒色砂質埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性なし

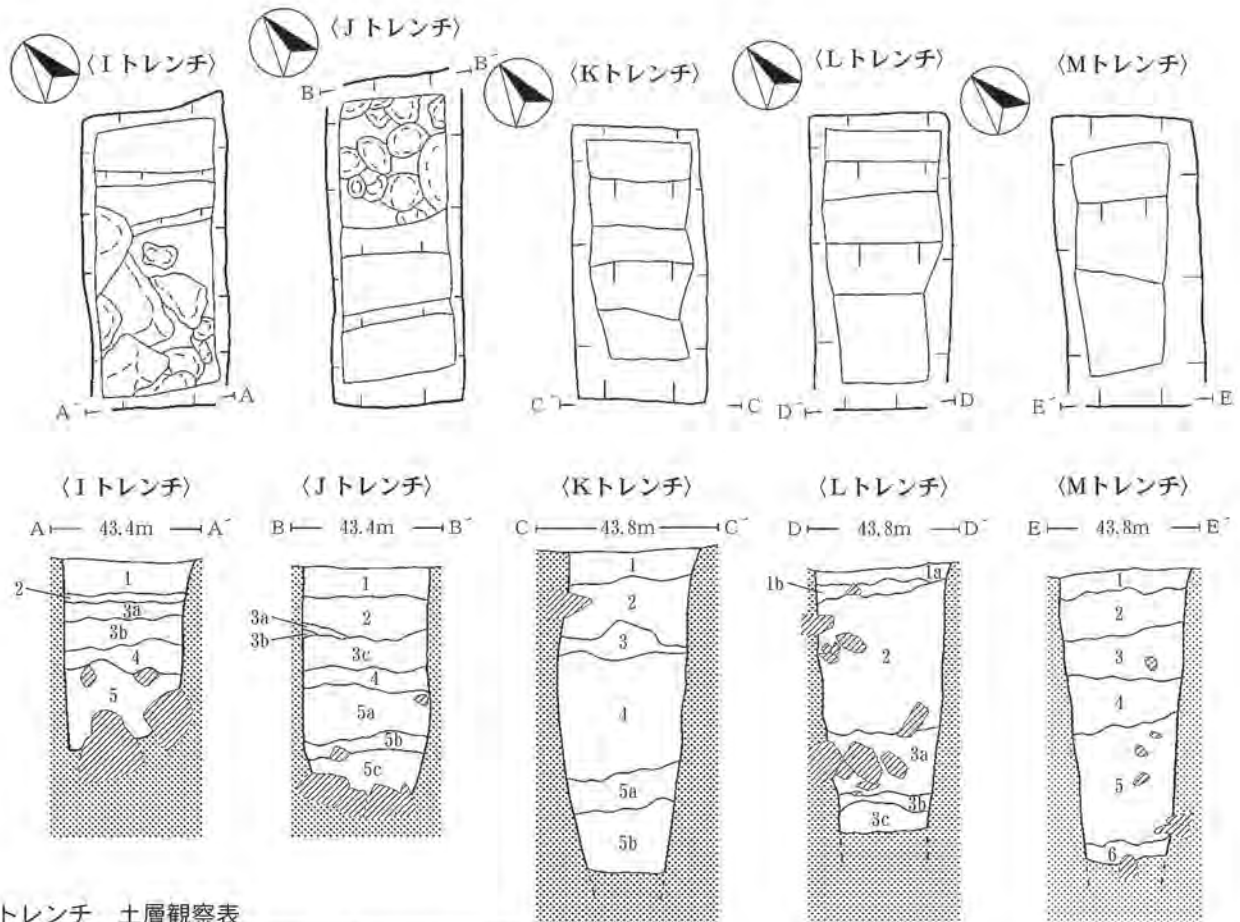
Gトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田	1 10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	10YR2/1 黒色砂質埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
耕作土	2 10YR2/1 黒色砂質埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土20%粒状	硬質、粘性あり
盛土層	3 10YR2/1 黒色砂質埴壤土	10YR3/1 黒褐色砂質埴壤土20%粒状	硬質、粘性あり 5mm大の小礫多量
	4a 10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂土20%粒状	軟質、粘性なし
自然堆積層	4b 10YR3/3 暗褐色砂土	10YR4/4 褐色砂土10%粒状	軟質、粘性なし 礫多量
	5 10YR2/1 黒色砂質埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 1cm大の小礫多量
砂層	6 10YR3/4 暗褐色砂土	10YR2/3 黒褐色砂土5%塊状	軟質、粘性なし

Hトレンチ 土層観察表

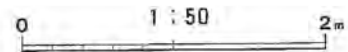
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR1.7/1 黒色埴壤土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
耕作土	2 10YR2/2 黒褐色埴壤土	7.5YR2/2 黒褐色埴壤土20%塊状	硬質、粘性あり
自然堆積層	3 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり 2~3cm大の礫
	4a 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂土5%塊状	やや硬質、粘性なし 礫少量
砂礫層	4b 10YR4/4 褐色砂土	10YR5/4 濃い黄褐色砂土10%粒状	軟質、粘性なし 1mm大の砂粒
	4c 10YR4/3 濃い黄褐色砂土	10YR4/4 褐色砂土5%粒状	軟質、粘性なし
礫層	5 10YR6/4 濃い黄褐色砂土	10YR4/6 褐色砂土10%粒状	軟質、粘性なし

第13図 柵館I遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(2)



I トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1 10YR2/1 黒色砂質埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土10%粒状	硬質、粘性あり
	2 10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土	7.5Y2/1 黒色砂質埴壤土5%粒状	硬質、粘性あり
盛土層	3a 10YR2/3 黒褐色砂質埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土3%粒状	硬質、粘性あり 5mm大の礫
	3b 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土1%粒状	硬質、粘性あり 5mm大の礫
	4 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土20%塊状	硬質、粘性あり
砂礫層	5 10YR4/4 褐色砂土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土10%粒状	軟質、粘性なし



J トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
水田耕作土	1 10YR2/1 黒色砂質埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土1%塊状	硬質、粘性あり
	2 10YR2/3 黒褐色砂質埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂質埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
盛土層	3a 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR2/1 黒色埴壤土5%粒状 10YR3/4 暗褐色埴壤土5%粒状	硬質、粘性あり
	3b 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/1 黒色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	3c 10YR2/1 黒色砂質埴壤土	10YR3/2 黒褐色砂質埴壤土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
自然堆積層	4 10YR3/3 暗褐色砂埴土	10YR2/3 黒褐色砂埴土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
砂礫層	5a 10YR4/3 にぶい黄褐色砂土	10YR4/4 褐色砂土1%粒状	軟質、粘性なし
	5b 7.5YR3/3 暗褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土5%粒状	軟質、粘性なし
	5c 10YR4/4 褐色砂土	10YR5/6 黄褐色砂土10%粒状	軟質、粘性なし

L トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層	1a 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色砂埴土20%層状	硬質、粘性あり
	1b 10YR3/3 暗褐色砂埴土	10YR3/2 黒褐色砂埴土10%塊状	硬質、粘性あり 5mm大の礫
	2 10YR2/1 黒色砂埴土	10YR3/3 暗褐色砂埴土5%層状 0YR4/6 褐色砂埴土10%塊状	硬質、粘性あり
砂礫層	3a 10YR4/4 褐色砂土	10YR2/1 黒色砂埴土10%塊状	やや硬質、粘性なし
	3b 10YR2/1 黒色砂埴土	10YR3/4 暗褐色砂埴土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	3c 10YR4/3 にぶい黄褐色砂埴土	10YR3/4 暗褐色砂土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 1cm大の礫少量

K トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層	1 10YR3/3 暗褐色砂埴土	10YR4/6 褐色シルト質埴土10%塊状	硬質、粘性あり 3cm大の小礫少量
	2 10YR2/1 黒色砂埴土	10YR3/4 暗褐色砂埴土5%塊状	硬質、粘性あり
	3 10YR2/3 黒褐色砂埴土	10YR5/6 黄褐色砂埴土10%塊状	硬質、粘性あり
	4 10YR2/1 黒色砂埴土	10YR2/2 黒褐色砂埴土5%塊状	硬質、粘性あり
	5a 10YR3/3 暗褐色砂埴土	10YR2/2 黒褐色砂埴土10%塊状	硬質、粘性あり
	5b 10YR4/6 褐色砂土	10YR4/4 褐色砂土5%塊状	やや硬質、粘性なし

M トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層	1 10YR2/3 黒褐色砂埴土	10YR3/3 暗褐色砂埴土10%塊状	硬質、粘性あり
	2 10YR3/4 暗褐色砂埴土	10YR4/6 褐色砂埴土20%塊状	硬質、粘性あり
	3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂埴土	10YR5/6 黄褐色砂埴土10%塊状	硬質、粘性あり
	4 10YR3/4 暗褐色砂埴土	10YR4/6 褐色砂埴土20%塊状	硬質、粘性あり 5cm大の礫
	5 10YR3/3 暗褐色砂埴土	10YR5/6 黄褐色砂埴土30%塊状	硬質、粘性ややあり
	6 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂埴土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり

第14図 柵館I遺跡 試掘トレンチ平面図・断面図(3)

は礫層で、礫の密度が高く深さ約1.9 m地点まで掘り下げを行った。

1層から縄文土器が2点出土しているが、小破片のため図示できなかった。遺構は確認されなかった。

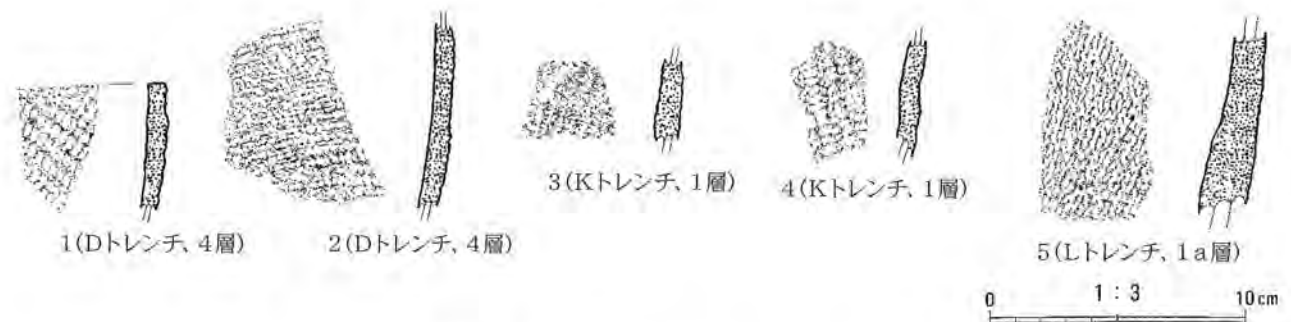
I トレンチ (第11・14図、写真図版42)

I トレンチは長さ2.2 m、幅1 mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～5層に大別され、3層はさらに3 a層・3 b層に細別される。1層は水田作土層である。2層は水田の床土である。3 a層・3 b層は黒色及び黒褐色を呈し、小礫が少量含まれている。4層は黒褐色を呈する埴壤土で、地山であるマサ土塊が少量含まれている。3層・4層は土性などから盛土と考えられる。5層は礫層で、礫の間には細砂粒がみられ水成堆積によるものと思われる。

2層から縄文土器が1点、3 a層から縄文土器が3点出土しているが、盛土中であるため原位置はとどめていないと思われる。遺構は確認されなかった。

J トレンチ (第11・14図、写真図版43)

J トレンチは長さ2.2 m、幅1 mに設定し確認を行った。現況は旧水田である。堆積土は1層～5層に大別され、3層はさらに3 a層～3 c層、5層は5 a層～5 c層に細別される。1層は水田作土層で、2層は水田の床土である。3 a層～3 c層は黒色及び黒褐色を呈する盛土層である。4層は暗褐色を呈する砂壤土で、5 a層～5 c層は礫層である。礫と礫の間には細砂粒がみられ水成堆積によるものと思われる。遺構・遺物は確認されなかった。



第15図 盛土・水成堆積層 出土遺物

柵館 | 遺跡 盛土・水成堆積層 土器観察表

挿図番号	番号	出土地点	層位	部位	文 様(外面)	内面調整	胎 土	備 考
第15図	1	Dトレンチ	4層	口縁部	RL単節斜縄文	ナデ	砂粒, 繊維含む	
第15図	2	Dトレンチ	4層	胴部	LR単節斜縄文	ナデ	砂粒, 繊維含む	
第15図	3	Kトレンチ	1層	胴部	LR単節斜縄文	ナデ	砂粒, 繊維含む	
第15図	4	Kトレンチ	1層	胴部	RL単節斜縄文	ナデ	砂粒, 繊維含む	
第15図	5	Lトレンチ	1a層	胴部	縞糸文	ナデ	砂粒, 繊維含む	

平成 19 年度 試掘調査

柵館 I 遺跡の平成 19 年度の試掘調査は、遺跡範囲内のほぼ中央部にあたる工事範囲内において実施した。調査対象区間は約 60 m で、その区間に試掘トレンチを 3 箇所（K～M トレンチ）設定し、遺構・遺物の確認を行った。元々は水田として利用されていたものと思われ、平坦面が広がっている。調査地点の南を通る現市道との比高差は 2 m 以上もある。

K トレンチ（第 11・14・15 図、写真図版 45・48）

K トレンチは試掘調査対象地区の西側に長さ 1.8 m、幅 1 m で設定した。堆積土は 1 層～5 層に大別され、5 層は 5 a 層・5 b 層に細別される。全て盛土層で、5 b 層はさらに下層に堆積している。層中には 10 cm～20 cm 大の礫が含まれている。

1・4・5 a 層から縄文土器が出土し、そのうち 2 点を図示している。第 15 図 3 は胴部破片で、L R 単節斜縄文が施文されている。胎土に繊維が含まれている。第 15 図 4 は胴部破片で、R L 単節斜縄文が施文されている。第 15 図 3 と同様、胎土に繊維が含まれている。2 点とも盛土層である 1 層からの出土であるが、縄文時代前期前半に所属すると考えられる。遺構は確認されなかった。

L トレンチ（第 11・14・15 図、写真図版 46・48）

L トレンチは試掘調査対象地区の中央よりやや西側に長さ 2 m、幅 1 m で設定した。堆積土は 1 層～3 層に大別され、1 層は 1 a 層・1 b 層、3 層は 3 a 層～3 c 層に細別される。全て盛土層で、3 c 層はさらに下層に堆積している。

1 a 層から縄文土器が出土し、1 点を図示している。第 15 図 5 は胴部破片で、外面には撚糸文がみられる。胎土には繊維が含まれ、縄文時代前期前半に所属すると考えられる。盛土中であるため混入したものと思われる。遺構は確認されなかった。

M トレンチ（第 11・14 図、写真図版 47）

M トレンチは試掘調査対象地区の東側に長さ 2 m、幅 1 m に設定した。堆積土は 1 層～6 層に分けられる。全て盛土層で、重機などで作業したと思われ固く締まっている。6 層はさらに下層に堆積している。遺構・遺物は確認されなかった。



32. 平成18年度 調査前現況 (西→)



33. 平成18年度 調査前現況 (西→)



34. Aトレンチ 完掘・堆積状況 (東→)



35. Bトレンチ 完掘・堆積状況 (東→)



36. Cトレンチ 完掘・堆積状況 (西→)



37. Dトレンチ 完掘・堆積状況 (東→)



38. Eトレンチ 完掘・堆積状況 (南西→)



39. Fトレンチ 完掘・堆積状況 (西→)



40. Gトレンチ 完掘・堆積状況 (北東→)



41. Hトレンチ 完掘・堆積状況 (南→)



42. Iトレンチ 完掘・堆積状況 (北→)



43. Jトレンチ 完掘・堆積状況 (南西→)



44. 平成19年度 調査前現況 (東→)



45. Kトレンチ 完掘・堆積状況 (東→)



46. Lトレンチ 完掘・堆積状況 (東→)



47. Mトレンチ 完掘・堆積状況 (東→)



48. 盛土・水成堆積層 出土遺物

第5章 遺跡隣接地の試掘調査

第1節 調査方法と調査経過

実測・写真撮影・土層注記

試掘トレンチ平面図及び断面図の縮尺は1/20を基本とし、レベルは市道長根岩船線道路改良工事の基準杭をもとに調査区に基準高を設定した。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

整理の方法

調査終了後、試掘トレンチ実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし、第2原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

調査経過

<平成21年度 与茂子I遺跡隣接地 試掘調査>

- 9月28日 調査前現況を写真撮影し、試掘トレンチを1箇所（Fトレンチ）を設定した。
- 9月30日 トレンチの掘り下げを開始した。
- 10月1日 トレンチ断面図・平面図を作成した。
- 10月2日 トレンチ平面図の作成終了。機材を撤収し調査を終了した。

<平成22年度 与茂子I遺跡隣接地 試掘調査>

- 4月21日 調査前現況を写真撮影し、試掘トレンチ（A-①～Eトレンチ）を設定した。
- 4月22日 トレンチの掘り下げを開始した。
- 4月30日 トレンチ断面図の作成を開始した。
- 5月7日 トレンチ平面図の作成を開始した。
- 5月14日 トレンチの埋め戻しを開始した。
- 5月18日 トレンチの埋め戻し終了。機材を撤収し調査を終了した。

第2節 試掘調査概要

平成22年度 試掘調査

平成22年度の与茂子I遺跡隣接地の試掘調査では、道路工事範囲内において試掘トレンチを8箇所（A-①～Eトレンチ）設定し、遺構・遺物の確認を行った。調査地点は与茂子I遺跡の西側、近内川の左岸に位置する。現況は水田であるが、遺跡範囲内と同様の平坦面が広がっていることから試掘調査を実施した。

A-①トレンチ（第16・17図、写真図版52）

A-①トレンチは試掘調査範囲の最も西側に位置している。1m×0.8mのトレンチを設定し掘り下げを行った。堆積土は1層～5層が確認された。1層は表土層で畑の耕作土である。2層は盛土層で、

3層・4層は黒色・褐色を呈する自然堆積層である。5層は黒褐色を呈する砂礫層で、すぐ南脇を流れる近内川による水成堆積層と考えられる。湧水がひどく、危険であるため途中で掘り下げを断念した。遺構・遺物は確認されなかった。

A-②トレンチ (第16・17図、写真図版53)

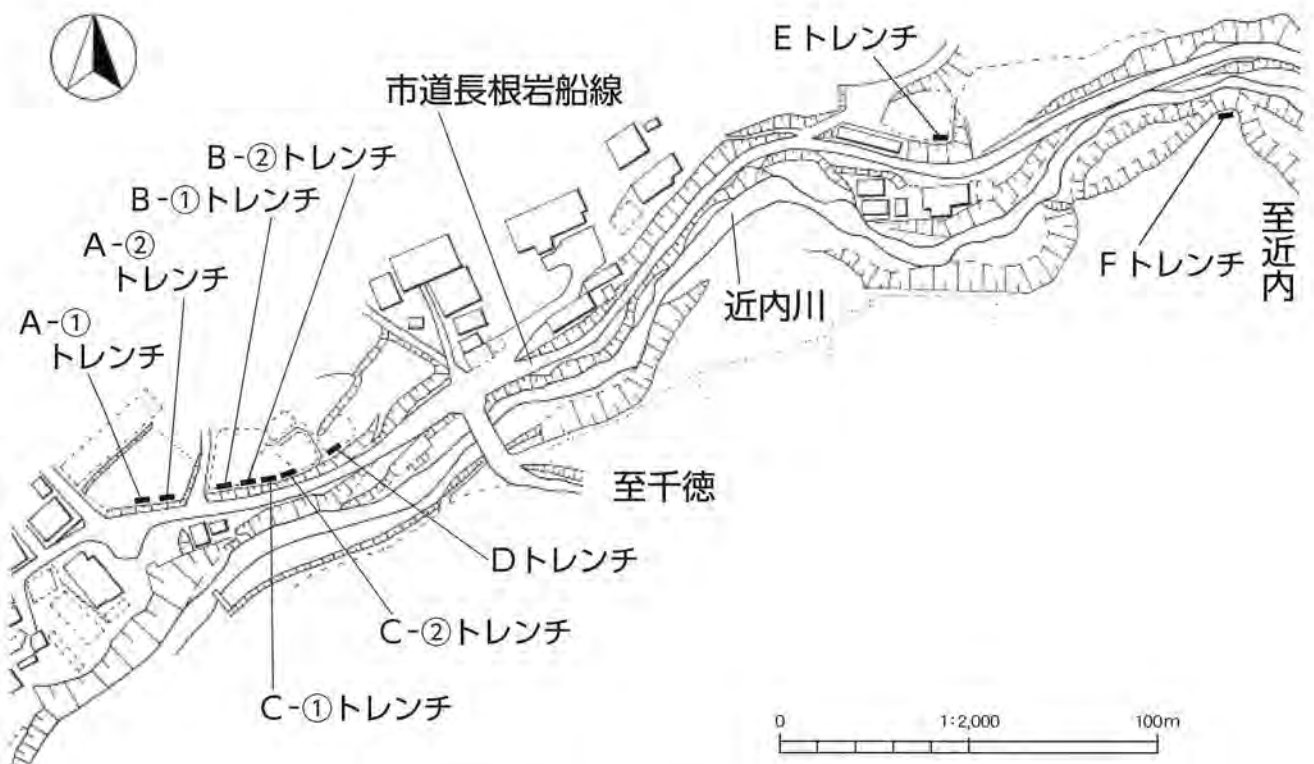
A-②トレンチは3m×1mに設定し掘り下げを行った。堆積土は1層～4層が確認された。1層は表土層で畑の耕作土である。2層は盛土層で、3層は黒色を呈する砂壤土である。4層は褐色を呈する砂礫層で、すぐ南脇を流れる近内川による水成堆積層と考えられる。湧水がみられた。遺構・遺物は確認されなかった。

B-①トレンチ (第16・17図、写真図版54)

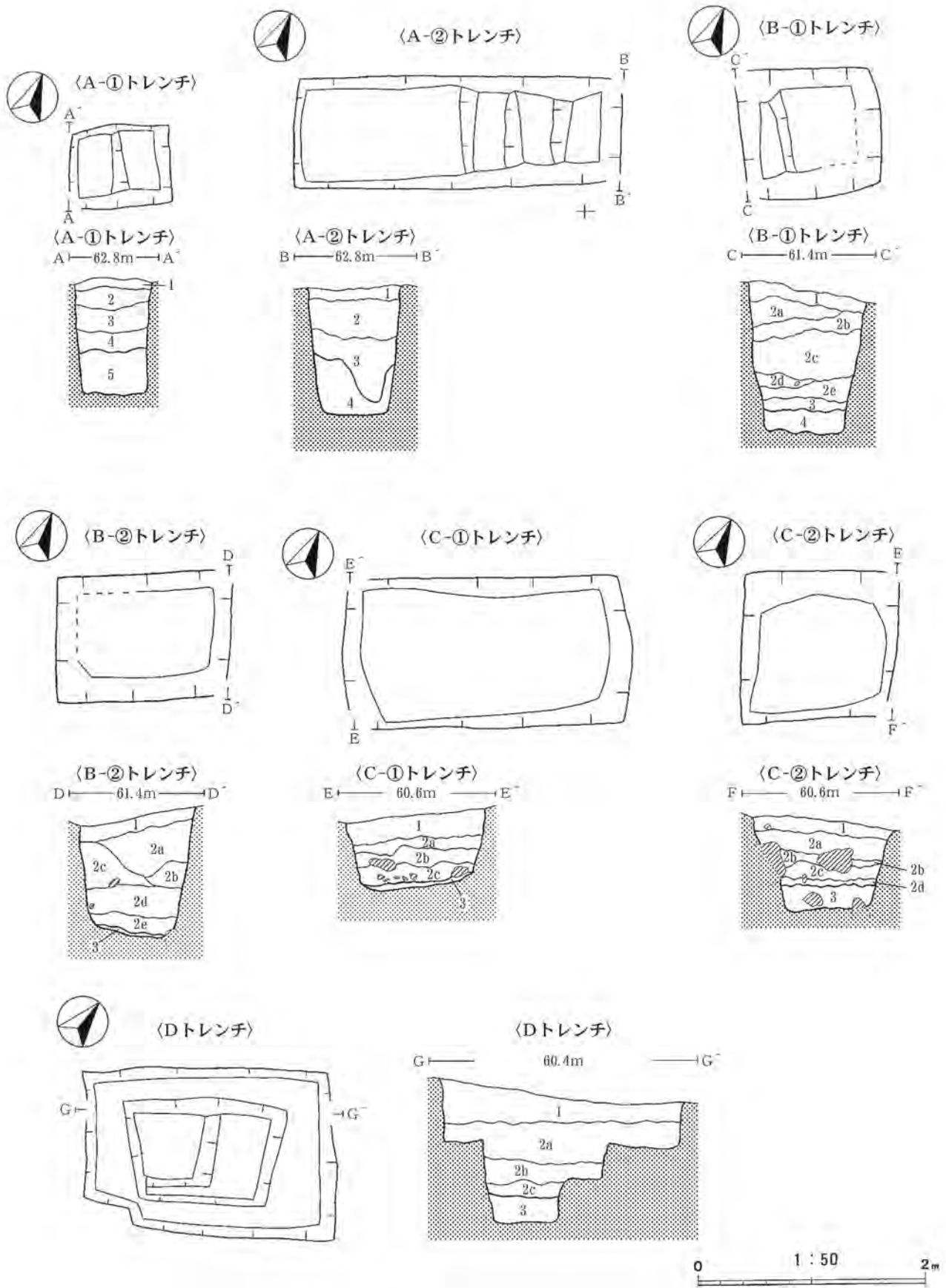
B-①トレンチは1.3m×1.2mに設定し掘り下げを行った。堆積土は1層～4層が確認され、2層はさらに2a層～2e層に細別される。1層は表土層、2a層～2e層は盛土層で、ビニール片やボルトなどの現代のものが混入している。3層は粘性のあるシルト質壤土である。4層はA-①②トレンチでも堆積していた砂礫層で、湧水がみられた。遺構・遺物は確認されなかった。

B-②トレンチ (第16・17図、写真図版55)

B-②トレンチは1.5m×1mに設定され掘り下げを行った。堆積土は1層～3層が確認され、2層はさらに2a層～2e層に細別される。1層は表土層、2a層～2e層は盛土層で、ビニール片などの現代のものが混入している。3層は砂礫層で、湧水がみられた。遺構・遺物は確認されなかった。



第16図 遺跡隣接地 試掘トレンチ位置図



第17図 遺跡隣接地 試掘トレンチ平面図・断面図 (I)

C - ①トレンチ (第16・17図、写真図版56)

C - ①トレンチは2.5 m×1.5 mに設定し掘り下げを行った。堆積土は1層～3層が確認され、2層はさらに2 a層～2 c層に細別される。1層は表土層で粘性がある。2 a層～2 c層は盛土層で、1 cm大の礫が混入している。3層は砂礫層で1 cm大の礫が多数含まれ、湧水がみられた。遺構・遺物は確認されなかった。

C - ②トレンチ (第16・17図、写真図版57)

C - ②トレンチは1.5 m×1.5 mに設定し掘り下げを行った。堆積土は1層～3層が確認され、2層はさらに2 a層～2 d層に細別される。1層は表土層で粘性がややある。2 a層～2 d層は盛土層で、2 d層以下から湧水がみられた。3層は褐灰色の砂礫層で、水成堆積の様相を呈する。遺構・遺物は確認されなかった。

Dトレンチ (第16・17図、写真図版58)

Dトレンチは2.5 m×1.5 mに設定し掘り下げを行った。堆積土は1層～3層が確認され、2層はさらに2 a層～2 c層に細別される。1層は表土層である。2 a層～2 c層は自然堆積層で、粘性はあるが湧水がみられた。3層は褐灰色の砂礫層で、水成堆積の様相を呈する。遺構・遺物は確認されなかった。

Eトレンチ (第16・18図、写真図版59・60)

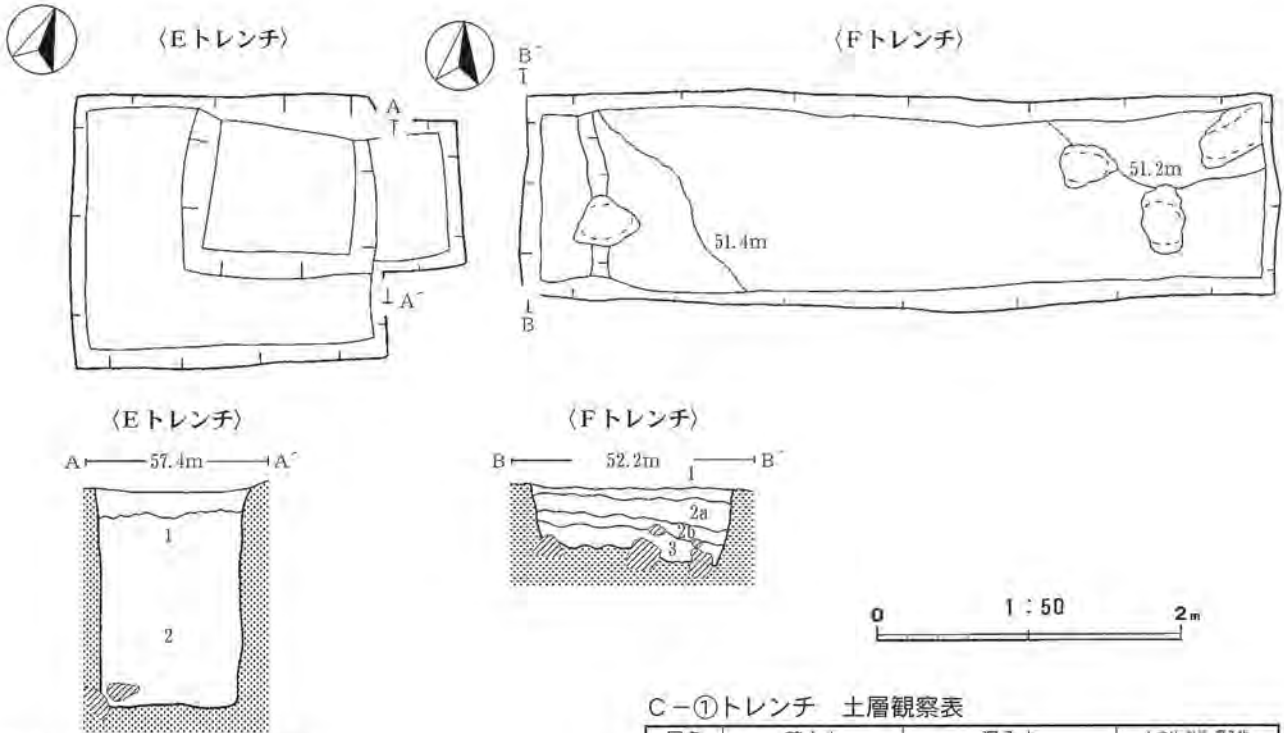
Eトレンチは2 m×2 mに設定し掘り下げを行った。堆積土は1層・2層が確認された。1層は表土層で、2層は盛土層である。2層の盛土層はさらに下層に堆積しているが、堆積状況や周辺の地形、地権者の聞き取りなどから、平坦面を作り出すために盛土をしたものと考えられ、下層には元の表土層・自然堆積層は残っていないと判断された。遺構・遺物は確認されなかった。

平成21年度 試掘調査

平成21年度の与茂子I遺跡隣接地の試掘調査は、近内川右岸に広がる平坦面の道路工事範囲内において試掘トレンチを1ヶ所(Fトレンチ)設定し、遺構・遺物の確認を行った。調査地点は与茂子I遺跡範囲の北東に位置しているが、遺跡範囲内に広がる平坦面と地形上は連続している。

Fトレンチ (第16・18図、写真図版61～64)

Fトレンチは長さ5 m、幅1.5 mで設定し、掘り下げを行った。堆積土は1層～3層に大別され、さらに2 a層・2 b層に細別される。1層は表土で、土質は柔らかい。2 a層・2 b層は盛土層でビニール片などが混入している。3層は地山漸移層で、その下層は地山となる。地山中には30 cm以上の礫が多数含まれている。遺構・遺物は確認されなかった。



A-①トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
表土層 1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
盛土層 2	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり	
自然堆積層	3	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 1%塊状	硬質、粘性あり
	4	10YR4/4 褐色砂土	10YR5/6 黄褐色砂土 10%塊状	軟質、粘性なし 1cm~5mm大の小礫多量、湧水
水成堆積層 5	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/1 黒色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり	

A-②トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
表土層 1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
盛土層 2	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり	
自然堆積層	3	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 1%塊状	硬質、粘性あり
	4	10YR4/4 褐色砂土	10YR5/6 黄褐色砂土 10%塊状	軟質、粘性なし 1cm~5mm大の小礫多量、湧水

B-①トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物		
表土層	1	10YR2/1 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
	2a	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
		10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり	
	盛土層	2c	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
		2d	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり
2e	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり		
旧耕作層	3	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土	10YR2/3 黒褐色シルト質埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり	
砂礫層	4	10YR4/6 褐色砂土	-	軟質、粘性なし	

B-②トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
表土層 1	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり	
盛土層	2a	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり 5cm大の礫
		10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり 1cm大の礫
	2c	10YR3/2 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 20%塊状	硬質、粘性あり
	2d	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR2/1 黒色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり
	2e	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土	10YR2/3 黒褐色シルト質埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
砂礫層	3	10YR4/6 褐色砂土	-	軟質、粘性なし

C-①トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
表土層	1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2a	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR1.7/1 黒色シルト質埴壤土 20%塊状	硬質、粘性あり
盛土層	2b	10YR1.7/1 黒色シルト質埴壤土	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
	2c	10YR2/1 黒色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 5%塊状	硬質、粘性あり
砂礫層	3	10YR4/2 灰黄褐色砂土	-	軟質、粘性なし 1cm大の礫多量

C-②トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
表土層	1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色シルト質埴壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2a	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	2b	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
盛土層	2c	10YR4/1 褐灰色砂壤土	10YR3/2 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 湧水
	2d	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/1 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性あり 湧水
砂礫層	3	10YR4/1 褐灰色シルト質埴壤土	10YR3/1 黒褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性あり

Dトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
表土層	1	10YR2/3 黒褐色シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土 5%塊状	やや硬質、粘性あり
自然堆積層	2a	10YR3/1 黒褐色シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性あり 湧水
		10YR3/1 黒褐色シルト質埴壤土	10YR4/1 褐灰色シルト質埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性あり
	2c	10YR1.7/1 黒色砂壤土	10YR2/1 黒色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性ややあり
砂礫層	3	10YR4/1 褐灰色シルト質埴壤土	10YR3/1 黒褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、粘性あり

Eトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
盛土層	1	10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR2/1 黒色埴壤土 5%塊状	硬質、粘性あり
	2	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR2/1 黒色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり 湧水

Fトレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物	
表土層	1	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
盛土層	2a	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
		10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり
地山漸移層	3	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、粘性なし

第18図 遺跡隣接地 試掘トレンチ平面図・断面図 (2)



49. 平成22年度 調査前現況 (西→)



50. 平成22年度 調査前現況 (東→)



51. 平成22年度 調査前現況 (Eトレンチ) (西→)



52. A-①トレンチ 完掘・堆積状況 (南→)



53. A-②トレンチ 完掘・堆積状況 (西→)



54. B-①トレンチ 完掘・堆積状況 (東→)



55. B-②トレンチ 完掘・堆積状況 (西→)



56. C-①トレンチ 完掘・堆積状況 (東→)



57. C-②トレンチ 完掘・堆積状況 (西→)



58. Dトレンチ 完掘・堆積状況 (南→)



59. Eトレンチ 堆積状況 (北→)



60. Eトレンチ 完掘・堆積状況 (西→)



61. 平成21年度 調査前現況 (Fトレンチ) (西→)



62. Fトレンチ 完掘状況 (西→)



63. Fトレンチ 堆積状況 (南→)



64. Fトレンチ 堆積状況 (東→)

第6章 まとめ

今回の菅ノ沢遺跡・柵館 I 遺跡及び遺跡隣接地の発掘調査は、市道長根岩船線道路改良工事に伴い実施された。その結果、盛土層中及び水成堆積層中ではあるが、縄文土器・石器・鉄滓が出土した。出土層の堆積状況から原位置をとどめておらず二次的な堆積と考えられる。また、両遺跡とも遺構は検出されなかったが、菅ノ沢遺跡 B 地点では特に鉄滓の出土量が多く、調査地点周辺に鉄生産遺構の存在がうかがえた。ここでは、各調査地点の概要について記述し、まとめとしたい。

菅ノ沢遺跡は A・B 地点の 2 箇所を調査している。A 地点の現況は水田で、水田耕作土の下層に床土、盛土層が確認され、その下層は砂礫層となっている。砂礫層には 20 cm～30 cm 大の礫が多数含まれ、地元住民からの聞き取りにより昭和 23 年のアイオン台風による堆積と推測される。

菅ノ沢遺跡 B 地点も同じく現況は水田で、近内川によって形成された段丘の縁辺部に位置する。水田整備の際の盛土が厚く堆積しており、かなりの地形改変が行われたことがうかがえる。前述のとおり、盛土中から鉄滓が大量に出土しており、造成の際に混入したものと考えられ、周辺に遺構がある可能性が高い。

柵館 I 遺跡の C 地点は、現況は旧水田で A・B 地点同様、水田耕作土・床土・盛土層という堆積層序が確認された。盛土層はトレンチによって層厚に違いはあるが、平坦面を作り出す目的のために造成された際に堆積されたものと考えられる。その下層には近内川による水成堆積層である砂礫層が確認された。水田耕作土中から縄文土器が出土しているが、二次堆積と考えられる。

D・E・F 地点は、周知の遺跡である与茂子 I 遺跡の隣接地で、近内川によって形成された平坦な地形に位置している。現況は水田や草地である。D 地点（F トレンチ）は表土層の直下は地山層となり、盛土層などの人為的な堆積はみられなかった。逆に E 地点（E トレンチ）は盛土層が厚く、地山面や砂礫層などを確認することができなかつたため、かなりの地形改変が行われたものと推測される。F 地点（A-①～D トレンチ）の現況は水田で、水田耕作土・床土・盛土と堆積し、その下層は砂礫層となっている。3 地点とも遺構は確認されなかった。

今回の市道長根岩船線道路改良工事に伴う菅ノ沢遺跡・柵館 I 遺跡の調査では、調査面積が狭小であるため遺構は検出されなかったが、縄文土器などの遺物の出土状況から、調査地点周辺において遺構の存在がうかがえた。菅ノ沢遺跡の東側には近内中村遺跡という縄文時代の大規模な集落跡があり、今後、菅ノ沢遺跡・柵館 I 遺跡をはじめ周辺の遺跡も含めた近内川流域の様相が明らかになることを期待したい。

<引用・参考文献>

- 2003 『大又沢 VI 遺跡—東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書 59
- 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査—市内遺跡発掘調査報告書 6—』 宮古市埋蔵文化財調査報告書 69
- 高橋憲太郎 2005 年 「岩手県宮古市近内地区出土の鳴る土偶について」『古代文化』第 57 巻第 7 号

報告書抄録

ふりがな	すげのさわ・さくだて 1							
書名	菅ノ沢遺跡・柵館 I 遺跡							
副書名	市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	85							
編著者名	長谷川真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1 TEL.0193-68-9122 FAX.0193-72-2176							
発行年月日	2015/3/18							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。'。" (世界測地系)	東経 。'。" (世界測地系)	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すげのさわいせき 菅ノ沢遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 ちかないだい ちわり 近内第7地割	03202	LG23-2024	39° 39' 12"	141° 54' 23"	151112～ 151201 161112～ 161125	42㎡ 54㎡	市道長根岩船線 道路改良工事に 伴う試掘調査
さくだていせき 柵館 I 遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 ちかないだい ちわり 近内第8地割ほか	03202	LG23-2021	39° 39' 10"	141° 54' 14"	180720～ 180817 191015～ 191019	25.2㎡ 6㎡	市道長根岩船線 道路改良工事に 伴う試掘調査
よもめこし 与茂子 I いせきりんせつち 遺跡隣接地	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 せんとくだい ちわり 千徳第23地割ほか	03202	LG22-2347	39° 39' 4"	141° 53' 58"	210928～ 211002 220421～ 220518	7.5㎡ 21㎡	市道長根岩船線 道路改良工事に 伴う試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
菅ノ沢遺跡	集落跡	縄文・古代	—	—			盛土中から縄文 土器・鉄滓出土	
柵館 I 遺跡	散布地	縄文	—	—			盛土中から縄文 土器・鉄滓出土	

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覽

- 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
- 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
- 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書1』
- 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書2』
- 5 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』
- 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書3』
- 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』
- 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書4』
- 9 1986 『宮古市遺跡分布図-昭和60年度版-』
- 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』
- 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』
- 12 1987 『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』
- 13 1987 『崎山遺跡群I-昭和60年度発掘調査概報-』
- 14 1988 『青猿I・下在家II・千徳城遺跡群(堀台館)-昭和62年度発掘調査報告書-』
- 15 1988 『崎山遺跡群II-昭和62年度発掘調査概報-』
- 16 1989 『千鶴遺跡-昭和62年度発掘調査報告書-』
- 17 1989 『トロノ木I遺跡-第1~7次発掘調査報告書-』
- 18 1989 『崎山遺跡群III-昭和63年度発掘調査概報-』
- 19 1989 『高根遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 20 1989 『狐崎VI遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 21 1989 『崎山トロノ木IV遺跡-昭和63年度調査報告書-』
- 22 1990 『狐崎遺跡-平成元年度発掘調査報告書-』
- 23 1990 『崎山遺跡群IV-平成元年度発掘調査概報-』
- 24 1990 『磯鷗館山遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 25 1990 『鎌ヶ崎館山貝塚-平成元年度発掘調査報告書-』
- 26 1991 『崎山遺跡群V-平成2年度発掘調査概報-』
- 27 1991 『青猿I・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書-』
- 28 1990 『熊野町遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 29 1991 『弘川I遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 30 1992 『金浜I遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』
- 31 1992 『重茂館遺跡群-第1次調査報告書-』
- 32 1992 『黒森町I遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 33 1992 『高根遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』
- 34 1992 『壱沢遺跡群-平成2年度発掘調査報告書-』
- 35 1992 『大付遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』
- 36 1992 『細越I遺跡・芋野VI遺跡-農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 37 1992 『崎山遺跡群VI-平成3年度発掘調査概報-』
- 38 1993 『萩沢VI遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 39 1993 『早稲橋VI遺跡-第1次・第2次発掘調査報告書-』
- 40 1993 『崎山遺跡群VII-平成4年度発掘調査概報-』
- 41 1994 『崎山遺跡群VIII-平成5年度発掘調査概報-』
- 42 1995 『赤前I牛子沢遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 43 1995 『磯鷗館山遺跡発掘調査報告書』
- 44 1995 『崎山貝塚-範囲確認調査報告書-』
- 45 1995 『笹沢I・加村・仲組III・堺ノ神遺跡-市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 46 1995 『花原市遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報I 早稲橋VI遺跡・崎山貝塚』
- 48 1996 『大付遺跡-平成5年・6年度発掘調査報告書-』
- 49 1997 『花原市遺跡-平成8年度発掘調査報告書-』
- 50 1997 『白石遺跡-第6次発掘調査報告書-』
- 51 1998 『赤畑・天神山・山口館-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 52 1998 『藤畑遺跡-平成9年度発掘調査報告書-』
- 53 1999 『赤前III・赤前IV八枚田・赤前V柳沢・赤前VI釜ヶ沢・小堀内III遺跡-水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 54 1999 『千鶴IV遺跡-水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 55 1999 『崎山貝塚-第12次・13次内容確認調査概報』
- 56 2000 『木戸井内VI・木戸井内III・上村III遺跡-特別高压送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 57 2002 『山口館跡-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 58 2002 『小沢VI大上遺跡-市内遺跡発掘調査報告書2-』
- 59 2003 『大沢VI遺跡-東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書-』
- 60 2003 『上根井沢I遺跡・沼里遺跡-市内遺跡発掘調査報告書3-』
- 61 2003 『早稲橋VI遺跡第6次調査-市内遺跡発掘調査報告書4-』
- 62 2003 『下在家I遺跡-平成14年度発掘調査報告書-』
- 63 2004 『大程II遺跡・平浜遺跡-市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書-』
- 64 2005 『弘川館跡-瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書-』
- 65 2006 『高浜VI地神遺跡-高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書-』
- 66 2006 『崎山貝塚第20次調査・早稲橋II遺跡第7次調査-市内遺跡発掘調査報告書5-』
- 67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込I遺跡-市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書-』
- 68 2006 『木戸井内IV遺跡-宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書-』
- 69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査-市内遺跡発掘調査報告書6-』
- 70 2007 『山口館跡-市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 71 2007 『近内館跡-宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書-』
- 72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査-市内遺跡発掘調査報告書7-』
- 73 2007 『弘川館跡第2次調査-宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書-』
- 74 2008 『荷竹日向IV遺跡-市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書』
- 75 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書5』
- 76 2009 『国指定史跡崎山貝塚 第IV期内容確認調査概報(骨角器篇)』
- 77 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書6』
- 78 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書7』
- 79 2012 『重茂館遺跡群-第2次発掘調査報告書-』
- 80 2014 『八木沢駒込I遺跡・八木沢駒込II遺跡-市道磯鷗金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
- 81 2014 『蜂ヶ沢I遺跡・山口駒込I遺跡・山口駒込II遺跡-市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
- 82 2014 『赤畑東遺跡-山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書-』
- 83 2015 『千徳城遺跡群-一条工務店モデルハウス建設工事関係発掘調査報告書-』
- 84 2015 『黒森町I遺跡-宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書-』

宮古市埋蔵文化財調査報告書85

すげのさわいせき さくだてI いせき 菅ノ沢遺跡・柵館I遺跡

— 市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書 —

2015. 3

印刷・発行 平成27年3月18日
発行 宮古市教育委員会
〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1
TEL. 0193-68-9122
印刷 ショウジ印刷株式会社
〒027-0084 岩手県宮古市末広町4-10
TEL. 0193-62-1326

